ハードディスクレコーダー

VR-616

取扱説明書
（A）



お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの「取扱説明書」と「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあとも、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機の底面後部に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

LLT0080-001B-K

このたびはハードディスクレコーダー VR-616を お買い上げいただきありがとうございます。

― 目次 ―

1. 正しくお使いいただくためのご注意---------- 6

2. はじめに---------- 8
2.1 内容物の確認---------- 8
2.2 おもな特徴---------- 9
2.3 設置の準備---------- 10
2.4 各部の名称とはたらき---------- 11

3. 基本機能の説明---------- 14
3.1 HDRシステムの基本接続例---------- 14
3.2 接続端子---------- 15
3.3 通信制御カメラ---------- 16
3.3.1 TK-S576BまたはTK-S655との接続例---------- 16
3.3.2 TK-S576BまたはTK-S655の設定値---------- 17
3.4 アラーム入出力端子---------- 18
3.4.1 アラーム入力端子---------- 18
3.4.2 アラーム出力端子---------- 19
3.5 ネットワーク---------- 20
3.5.1 ネットワークの接続---------- 20
3.5.2 設定手順---------- 20
3.5.3 ネットワークアドレス設定---------- 21
3.6 遠隔ネットワーク操作---------- 22
3.6.1 概要---------- 22
3.6.2 ウェブブラウザ---------- 22
3.6.3 遠隔監視(LIVEモード)---------- 23
3.6.4 遠隔再生---------- 23
3.6.5 クライアントソフトウェア---------- 24

4. 基本的な操作---------- 25
4.1 前面ボタン---------- 25
4.1.1 ご使用の前に---------- 25
4.1.2 カメラ選択/表示切換/ユーザー/自動切換ボタン---------- 25
4.1.3 記録ボタン---------- 25
4.1.4 再生時に使用するボタン---------- 26
4.1.5 メニューボタン---------- 27
4.1.6 フリーズボタン---------- 27
4.1.7 イメージシーケンス/トリプレックスボタン---------- 28

5. メニュー設定---------- 29
5.1 カメラ設定---------- 30
5.1.1 カメラ制御---------- 30
5.1.1.1 通信制御カメラ---------- 30
5.1.1.2 操作方法---------- 31
5.1.2 カメラ詳細設定---------- 32
5.1.2.1 設定手順---------- 32
5.1.2.2 カメラタイトル設定---------- 33
5.1.2.3 カメラ設定---------- 33
5.1.2.4 画質設定---------- 34
5.1.3 通信制御カメラ設定---------- 35
5.2 記録設定---------- 36
5.2.1 マニュアル記録設定---------- 36
5.2.1.1 イベント記録設定---------- 37
5.2.1.2 記録画質設定/音声設定---------- 37
5.2.2 プログラムタイマー設定---------- 38
5.2.2.1 プログラム表の読み方---------- 39
5.2.2.2 記録区間の設定方法---------- 40
5.2.2.3 イベント記録設定---------- 40
5.2.2.4 記録画質設定---------- 41
5.2.2.5 音声設定---------- 42
5.2.2.6 曜日設定---------- 42
5.2.2.7 プログラムコピー ---------- 43
5.2.2.8 リセット---------- 43
5.2.2.9 日付指定タイマー設定---------- 44
5.2.3 最大記録コマ数---------- 45
5.2.4 アラーム記録設定---------- 46
5.2.5 記録時間表---------- 48
5.3 アラーム設定---------- 49
5.3.1 アラーム名設定---------- 49
5.3.2 アラーム出力設定---------- 50
5.3.2.1 アラーム入力---------- 50
5.3.2.2 イベント---------- 51
5.3.2.3 アラーム解除---------- 51
5.3.2.4 アラーム出力チャンネル---------- 51
5.4 ユーザー指定画面設定---------- 52
5.5 音声設定---------- 53
5.6 メニュー表示設定---------- 54
5.7 システム設定---------- 55
5.7.1 システムログ---------- 55
5.7.2 アラームログ---------- 57

5.7.3 ハードディスク管理---------- 57
5.7.3.1 ハードディスク情報---------- 58
5.7.3.2 上書き設定---------- 59
5.7.3.3 過去ログの削除---------- 59
5.7.3.4 HDD残量警告表示---------- 59
5.7.3.5 リムーバブルHDDの増設方法---------- 60
5.7.4 バックアップ---------- 62
5.7.5 自動切換表示設定---------- 64
5.7.6 映像出力設定---------- 65
5.7.7 詳細設定---------- 66
5.7.7.1 ネットワーク設定---------- 66
5.7.7.2 日付/時刻設定---------- 68
5.7.7.3 パスワード設定---------- 69
5.7.7.4 ウェブ用パスワード設定---------- 71
5.7.7.5 非表示カメラ設定---------- 72
5.7.7.6 イベントメール設定---------- 72
5.7.7.7 USBデータ管理---------- 74
5.7.7.8 リモートコントローラー設定---------- 75
5.7.7.9 前面パネルのボタンをロック---------- 75
5.7.8 システム情報 ---------- 75
5.7.9 工場出荷時設定---------- 76
5.8 オンスクリーン表示---------- 77
5.9 再生メニュー ---------- 78
5.10 オペレートOFF---------- 80

6. 外部バックアップ---------- 81
6.1 USB端子---------- 81
6.1.1 USB端子の接続---------- 81
6.1.2 バックアップ---------- 81
6.2 IEEE 1394端子 ---------- 82
6.2.1 IEEE 1394端子の接続---------- 82

7. リモートコントローラ ---------- 83
7.1 概要 ---------- 83
7.2 詳細 ---------- 84

8. トラブル時の対応---------- 87
9. 保証とアフターサービスについて---------- 87

10. 仕様---------- 88

1. 正しくお使いいただくためのご注意

この製品はクラスA情報技術装置です。住宅環境で使用する場合は、電波障害を発生させる恐れがあります。その際、この製品の利用者は、適切な手段を講ずることが必要とされることがあります。

■ 次のような場所では保管または使用しないでください。誤動作や故障原因になります。
- ・許容動作温度(5℃～ 40℃)範囲外の極端に暑いところや寒いところ
- ・許容動作湿度(30%～80%)範囲外の湿気の多いところ
- ・変圧器やモーターなど強い磁気を発生するところ
- ・トランシーバーや携帯電話など電波を発生する機器の近く
- ・ほこりや砂の多いところ
- ・振動の激しいところ
- ・つゆつき(結露)の発生しやすいところ
- ・放射線やX 線、および腐食性ガスの発生するところ

■ 機器内部の温度上昇を防ぐため、機器を重ねて使用しないでください。
■ 本機を立てて使用しないでください。
■ ショックを与えないようていねいにお取り扱いください。
■ 本機の上にモニターテレビなどの重いものをのせないでください。動作不良をおこす恐れがあります。
■ お手入れはやわらかい布でふいてください。シンナーやベンジンでふきますと表面が溶けたり、くもったりします。よごれがひどいときは、中性洗剤を水でうすめてふき、あとでからぶきしてください。
■ 輸送するときは、ショックを与えないようにしてください。特にオペレートON中の移動は絶対にしないでください。オペレートOFFまたは、電源コードを抜いた状態で移動してください。
■ ハードディスクのフォーマットの処理をしているときに停電が発生すると、その後の運用に支障が生じることがあります。
■ ハードディスクは消耗品です。10,000時間のご使用を目安にメンテナンスしてください。(25℃環境での使用時)メンテナンスの計画、費用などのご相談は、ご購入先の販売店、または別紙のサービス窓口案内をご覧になり最寄のビクターサービスセンターにお願いします。
■ 電源をOFFした後15秒間は、本機に衝撃を与えたり、動かさないでください。 ハードディスク故障の原因になることがあります。
■ 付属の電源コードは、本機以外の機器で使わないでください。
■ 万一本機およびハードディスクドライブ等の不具合により、正常に記録できなかったり、再生できなかった場合、その内容の補償についてはご容赦ください。
■ テレビ放送や録画(録音)物などから、記録したものは、個人として楽しむほかは、著作権上権利者に無断で使用できません。
■ ハードディスクを交換する場合は、記録された画像が消去されますのでご注意ください。
■ 節電のため長時間使用しないときは電源を切ってください。

※ 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では®、©などのマークは省略してあります。

■外部記憶装置

外部記憶装置の増設や取り外しをする場合は、主電源をOFFにしてください。システムを再起動する場合、外部装置初期化のために外部記憶装置の電源を一度切ってください。

■ VGA表示

VGAモニターを使用しない場合は、″メニュー″→″システム設定″→″映像出力設定″にある″VGAモニタを使用する″にチェックを入れないでご使用ください。（工場出荷時設定）

VGAモニターを使用する場合は、″メニュー″→″システム設定″→″映像出力設定″にある″VGAモニタを使用する″にチェックを入れてください。お買い上げ後、すぐにVGAモニターを使用する場合は、システム起動時のLEDの点滅が終わってから、”停止”と″表示切換″ボタンを3秒間長押ししてください。（→P.65）

■パスワード設定

この機器は、パスワード設定ができます。″メニュー″→″システム設定″→″詳細設定″→″パスワード設定″の順にたどってください。オペレートOFF時や、″記録″または″メニュー″ボタンが押された時にパスワードを要求します。（→P.69）

パスワードは他人に教えないでください。また忘れないようにしてください。

■オペレーションロック設定

この機器は、オペレーションロック設定ができます。“メニュー”→“システム設定”→“詳細設定”にある“前面パネルのボタンをロック″、または“メニュー”→“システム設定”→“詳細設定”→”リモコン設定”にある″オペレーションロック″にチェックを入れてください。オペレートボタン及びそれぞれのメニューボタン以外のボタンの受け付けを禁止します。

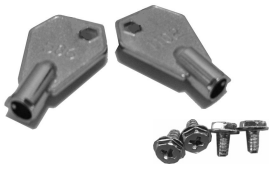
2.はじめに

2.1 内容物の確認

内容物の個数は、**10.仕様**(P.88) をご参照ください。
内容物の色および形状は一部異なる場合があります。



本体



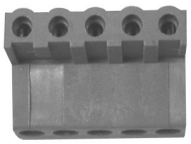
ロックキー（リムーバブルHDD用）
／HDD固定ネジ



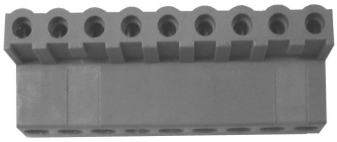
ラックマウント金具／
ラックハンドル／
ハンドル固定ネジ



RS-485端子



アラーム出力端子



アラーム入力端子



CD-ROM



取扱説明書（本書）



フット／
フット取付けネジ



電源コード



リモートコントローラ
／乾電池

2.2 おもな特徴

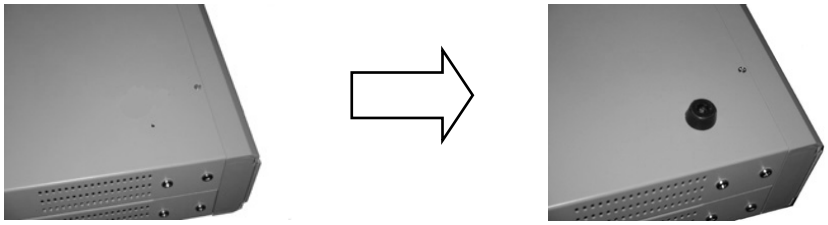
1) 高画質デジタル記録
ウェブレット圧縮により、高画質デジタル記録が可能です。
2) 遠隔再生・バックアップ
クライアントソフトを使用することでネットワークによる再生やバックアップが可能です。
3) バックアップ
HDDの用途を"バックアップ"に設定すると、内蔵HDDやリムーバブルHDDに記録映像をバックアップ可能です。また、IEEE1394 HDDに記録映像をバックアップすることも可能です。
また、USB機器を接続して静止画の保存も可能です。
4) ライブ画表示
フル画面、4/6/7/9/10/16分割画面、でライブ画面を確認できます。また、ズーム表示も可能です。
5) 遠隔操作・監視
当社指定のカメラを使用することで、遠隔のカメラをコントロールすることができ、また、Webブラウザにより、ライブ画や再生画を見ることができます。
6) 動き検出およびアラーム記録機能
動き検出および外部アラーム入力により自動で記録を開始することが可能です。それぞれのチャンネルごとに検出エリア、感度、検出間隔を設定して動き検出ができます。
7) 検索機能
日付、時刻、アラームなどの検索条件によって記録映像の検索ができます。
8) アラーム入力/アラーム出力
アラーム入力/アラーム出力をそれぞれ複数個備えています。
9) 記録設定
記録中の画質、記録コマ数などを設定でき、効率的な記録を行えます。
10) 記録機能
動き検出/アラーム検出とプログラムタイマーを併用して記録ができます。
11) 自動チェックおよび回復機能
本機は自己モニタリング機能を備えています。システムに異常が生じた場合、自動的に再起動するように設計されています。
12) 改ざん防止
CD/HDDバックアップ機能またはダウンロード機能の使用時に、画像に電子透かしを付加して改ざんの検出ができます。

2.3 設置の準備

■ラックマウントせずに使用するとき

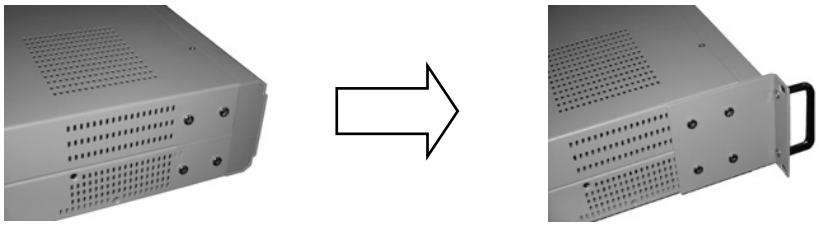
(1) フットを取り付ける。
・添付のフット取付けネジ(M3 x 8mm)4本でフット4個を本体底面に取り付けます。

添付のネジ以外を使用すると、故障の原因となることがあります。必ず添付のフット取付けネジを使用してください。



■ラックに取り付けて使用するとき

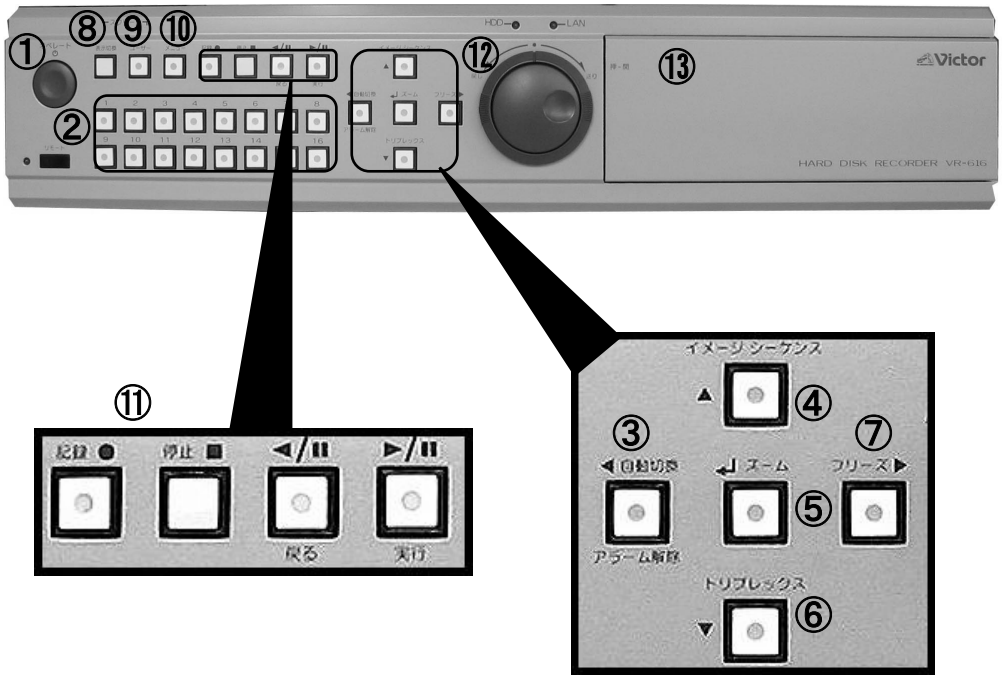
(1) ラックマウント金具を組み立てる
・アングル　2個とハンドル　2個をハンドル固定ネジ　4本(M4 x 10mm)で結合して作ります。
(2) 本体側面のネジを外す
・本体側面の前方にある8本のアングル固定ネジ(M4 x 10mm)を外します。
(3) ラックマウント金具を取り付ける
・(1)で作成したラックマウント金具　2個を、(2)で取り外したネジを使用してを本体に取り付けます。
(4) 本体をラックに組み付ける



ネジの種類	
 アングル固定ネジ M4 x 10mm (出荷時は本体に付いています)	 ハンドル固定ネジ M4 x 10mm
 フット取付ネジ M3 x 8mm	 HDD固定ネジ M3 x 6mm

2.4 各部の名称とはたらき

■ 前面パネル



① オペレートボタン

オペレートのON/OFFを切り替えます。
ボタンを5秒以上長押しすると、オペレートON（使用可能状態）になります。
システム起動中は、"Preparing system. Please wait a moment."→"1394-HDDが認識されるのを待っています"と画面に表示されます。起動までしばらくお待ち下さい。
オペレートON中にボタンを5秒以上長押しすると、オペレートOFFになります。（→P.25）

② カメラ選択ボタン（CH1 ～ CH16）

表示するカメラチャンネルを選択します。また、メニューで設定するチャンネルの変更、ユーザー指定画面設定での変更、フリーズ表示するカメラチャンネルの選択などに使用します。（→P.25）

③ 自動切換ボタン

表示チャンネルをメニューで設定した速度で切り替えます。

アラーム解除ボタン

アラーム出力を停止します。

◄ ボタン

モーショングリッドの選択や、カーソルを左に移動するのに使用します。（→P.25）

④ イメージシーケンスボタン
イメージシーケンス表示に使用します。

▲ ボタン
モーショングリッドの選択や、文字の変更、カーソルを上に移動するのに使用します。(→P.26)

⑤ ズームボタン
ライブ画や静止画をズームするのに使用します。選択した領域を2倍に拡大表示します。

実行ボタン
メニューの選択・設定を行います。(→P.26)

⑥ トリプレックスボタン
トリプレックス表示に使用します。

▼ボタン
モーショングリッドの選択や、文字の変更、カーソルを下に移動するのに使用します。(→P.26)

⑦ フリーズボタン
ライブ画や再生画像のフリーズに使用します。
外部機器に静止画をバックアップする際にも使用します。

► ボタン
モーショングリッドの選択や、カーソルを右に移動するのに使用します。(→P.27)

⑧ 表示切換ボタン
再生画／ライブ画の分割表示を変更します。(→P.25)

⑨ ユーザーボタン
ユーザ指定画面を表示します。(→P.25)

⑩ メニューボタン
メニューを表示します。(→P.27)

⑪ 記録, 停止, 逆再生(戻る), 再生 (実行)ボタン
記録:記録を開始します。再度押すと記録を停止します。(→P.25)
停止:再生を停止します。
逆再生/戻る:逆再生を開始します。また、入力文字の間違いを削除したり、前のメニューに戻ったり、メニューを終了するのに使用します。
再生/実行:再生メニューを表示します。再生中にこのボタンを押すと一時停止します。

⑫ ジョグ・シャトル
ジョグ:再生時のコマ送りに使用します。またメニューでカーソルを移動します。
シャトル:再生時に、高速サーチができます。またカメラ制御にも使用します。(→P.27)

⑬ リムーバブルHDD収納部
増設用リムーバブルHDDを収納できます。リムーバブルHDDはメインまたはバックアップ用途で使用できます。

■ 背面パネル



① LAN：ネットワークに接続して映像検索やコントロールを可能にします。
（カテゴリ5でシールド付きのケーブルをご使用下さい）
② USB1、2：USB機器を接続できます。本機のUSB端子はUSB 1.1規格に対応しています。
フロッピードライブやフラッシュメモリが接続可能です。2つのUSBポートを同時に使用することはできません。どちらか片方をご使用ください。
③ SPARE：未使用の端子です。
④ RS－485：通信制御カメラを接続できます。RS-485の最大ケーブル長は1.2 kmです。
添付の端子にRS-485信号線を接続してから、本体に端子を取り付けてください。
（シールド付きのツイストペアケーブルをご使用ください。）
⑤ ALARM IN：アラーム入力端子。（シールド線をご使用ください。）
ALARM OUT：アラーム出力端子。（シールド線をご使用ください。）
⑥ IEEE 1394：外付記憶装置を接続して増設やバックアップができます。

・外付けIEEE1394 HDDを接続するときは、電源をOFFにしてください。
・外付けHDDと外付けCD-RWドライブを同時に接続した場合、動作は保証できません。

⑦ VGA OUT：PC用モニターに接続できます。
使用するときは、メニューで設定を行なってください。ビデオ信号モードをPALに設定した場合、液晶モニターは使用できません。
⑧ Y/C OUT：モニター出力をS-VIDEO信号で出力します。
⑨ MONITOR OUT1、2(コンポジット)：モニター出力。
メニューの表示や、映像の記録や検索時に使用します。
⑩ SPOT OUT (コンポジット)：メニューで選択した映像を出力します。
⑪ MODE(PAL/NTSC)：入力ビデオ信号モードを選択します。
入力ビデオ信号モードを変更したい場合は、一旦オペレートOFFしてから、MODEを変更し、オペレートONします。「ビデオ入力モード変更！」と表示されるので、「OK」ボタンを押し、さらに、「「OK」を押すと変更適用と同時に以前の記録データが削除されます。キャンセルするには、先にスイッチを元に戻して「Cancel」ボタンを押して下さい。」と表示されるので、ここでも「OK」ボタンを押すと、ビデオ信号モードが変更されます。

・PAL/NTSCを変更した場合、以前の記録データが削除されます！
・PAL/NTSCを変更した場合、Administratorパスワードもリセットされます。変更する前にパスワード設定を無効にしてください。
パスワード設定を有効にしたままPAL/NTSCを変更した場合は、デフォルトパスワードの"1234"を使用してください。

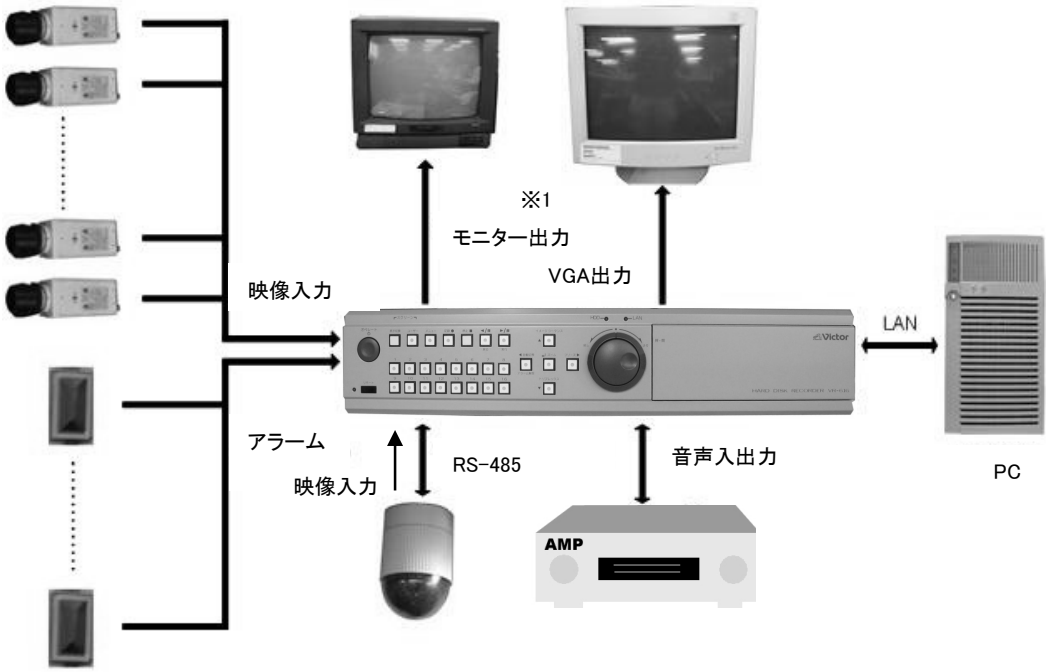
⑫ AUDIO IN/OUT：音声の入出力端子です。
⑬ VIDEO IN & THROUGH OUT (CH1～CH16)：非同期入力、ビデオ信号1.0Vp-p(75Ω)
ループ出力端子は、接続状態を判断して自動で終端します。
⑭ POWERスイッチ：主電源スイッチです。
⑮ AC INLET：AC100V電源に付属の電源コードで接続します。

3.基本機能の説明

3.1 HDRシステムの基本接続例

（HDR：ハードディスクレコーダー　本書では、ハードディスクレコーダーをHDRと記述します。）
本機は16入力まで非同期ビデオ信号に対応しています。また、再生中にライブ画のチェックが可能です。
ネットワークで監視・制御、及び映像検索することもできます。

・付属の電源コードでAC 100V 50Hz/60Hzコンセントに接続してください。
※1 モニターとVGAモニターは同時に接続できません。また、VGAモニターを使用するには設定が必要です。（詳細は **5.7.6 映像出力設定**(P.65) をご参照ください。）



3.2 接続端子



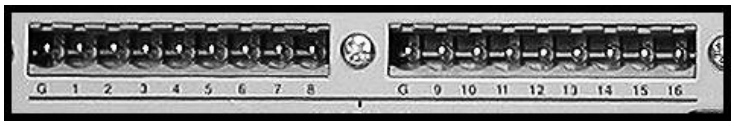
LAN 端子
（RJ-45）



USB 端子
（TYPE A）



RS-485 端子
（専用）



ALARM IN端子
（専用）



ALARM OUT端子
（専用）



IEEE 1394 端子
（6 PIN）



VGA OUT 端子
（15 PIN）



Y/C OUT 端子
（S 端子）



VIDEO IN 端子
（BNC）



MONITOR OUT 1,2端子
（BNC）



SPOT OUT 端子
（BNC）



AUDIO IN 端子
（RCA ピンジャック）



AUDIO OUT端子
（RCA ピンジャック）

3.3 通信制御カメラ

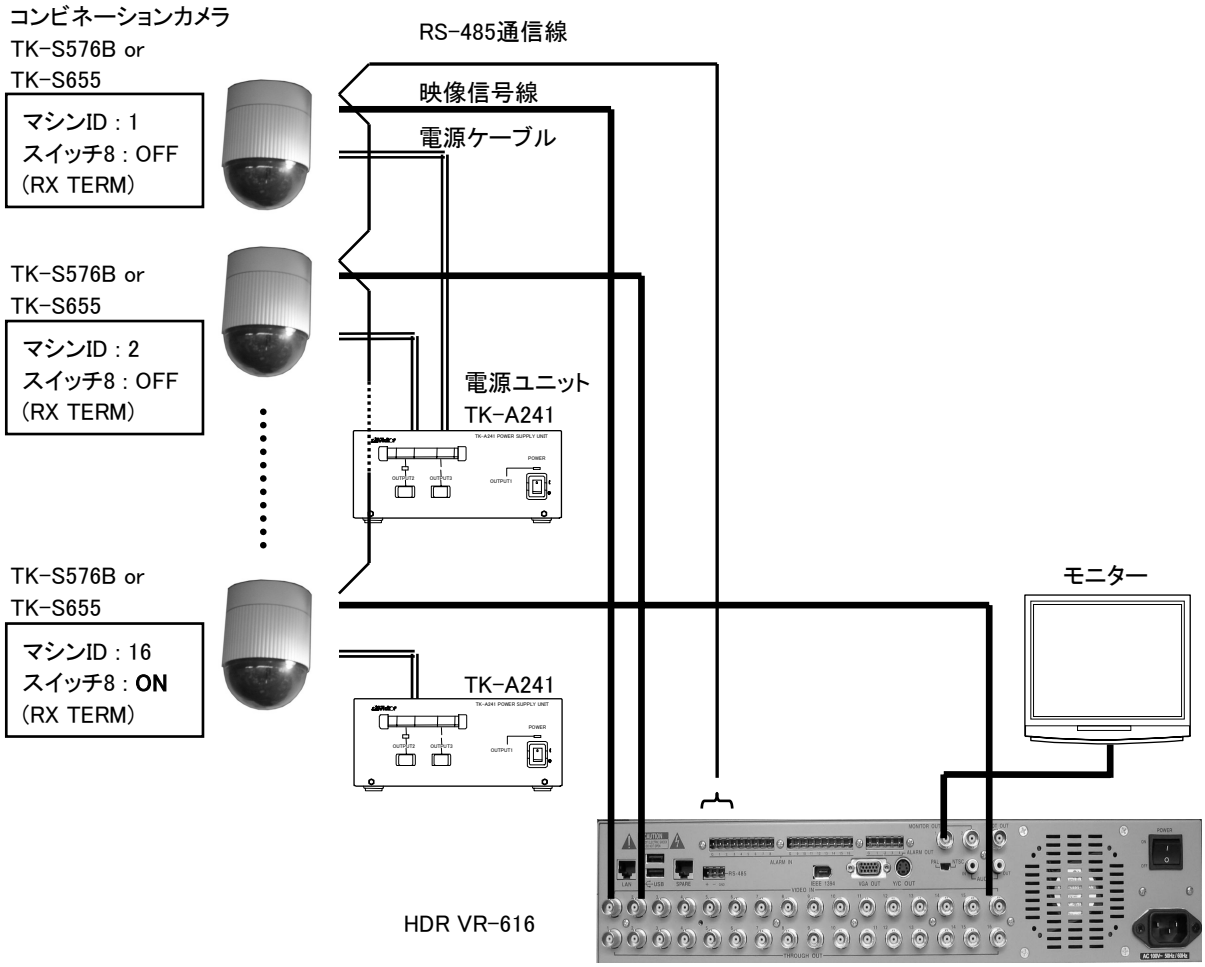
特別な装置の用意なしに通信制御カメラの制御ができます。
RS-485接続の通信制御カメラを使用できます。各カメラには同時接続のためにIDを与えます。
また、ジョグシャトルを使って制御できます。

推奨カメラ:

メーカー	機種
Victor	TK-S576B
Victor	TK-S655

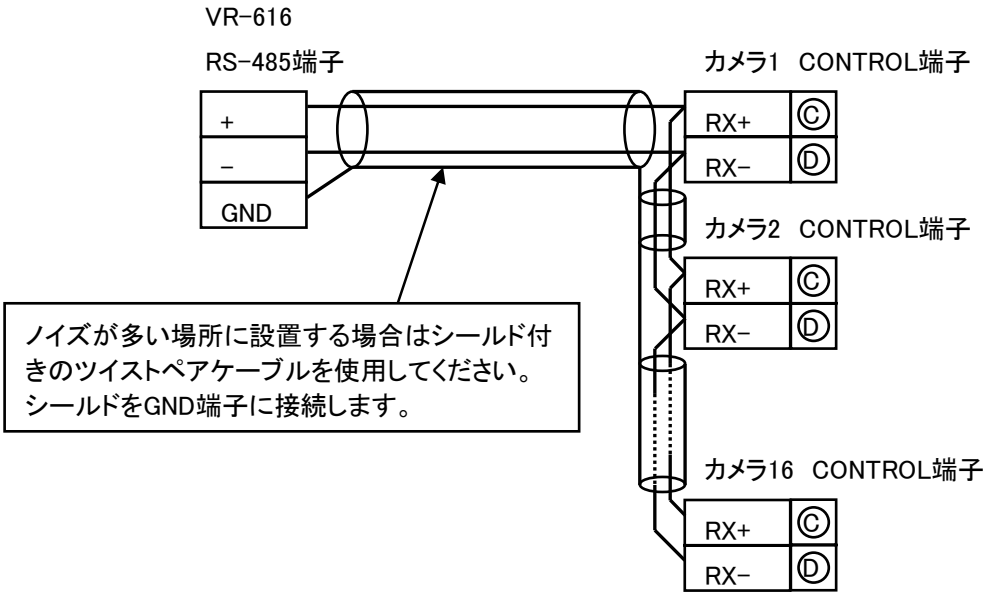
3.3.1 TK-S576B または TK-S655 との接続例

通信制御カメラを接続するには、カメラの電源、RS-485通信線、映像信号線を接続する必要があります。下図は本機とTK-S576B または TK-S655 16台の接続例です。



・カメラ電源:通信制御カメラの電源を電源ユニット(TK-A241)に接続します。
・RS-485:ツイストペアケーブルを使用してください。本機RS-485の＋端子(TX+) / −端子(TX-)を通信制御カメラのRX+ / RX-端子に接続します。最後に接続したカメラは、終端(スイッチ8:ON)の設定をしてください。
・映像信号(コンポジット):カメラの出力を各VIDEO IN端子に接続してください。

■ RS-485通信線の接続



3.3.2 TK-S576B または TK-S655 の設定値

設定項目	設定内容
スイッチ 4	ON
スイッチ 5	ON
スイッチ 7	ON
スイッチ 8	終端のカメラのみON、他のカメラはOFF。
ID設定	互いに異なる ID を設定する。

・本機で制御可能な機能は、PAN／TILT／ZOOM／FOCUS／AUTO FOCUSです。（ホームポジション、プリセットポジション等の設定は出来ません）なお、事前にホームポジション設定、カメラ映像設定を行うには、RM－P2580等のリモコンを利用してください。その際の接続、及び設定方法については、RM－P2580の取り扱い説明書をご覧ください。

・ VR-616 の設定に関しては、**5.1.2 カメラ詳細設定**(P.32)／**5.1.3 通信制御カメラ設定**(P.35) をご参照ください。

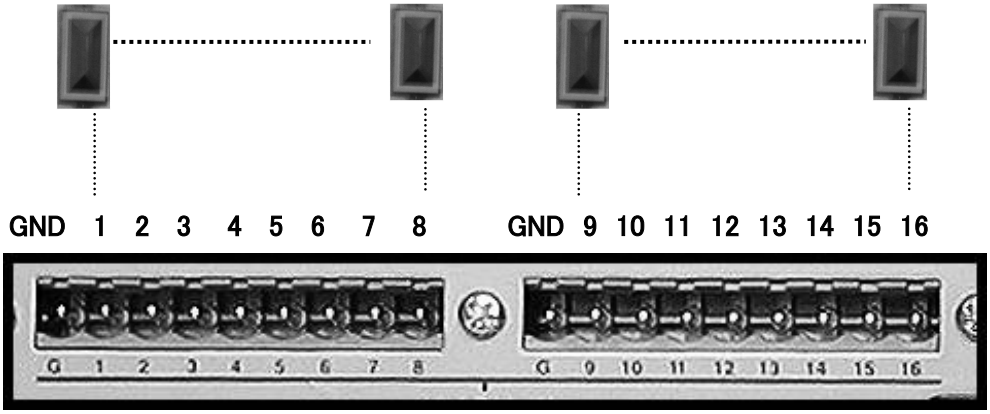
ホームポジション設定を行なわない場合、カメラ電源の切／入があると、カメラアングルは工場出荷時設定に戻ります。

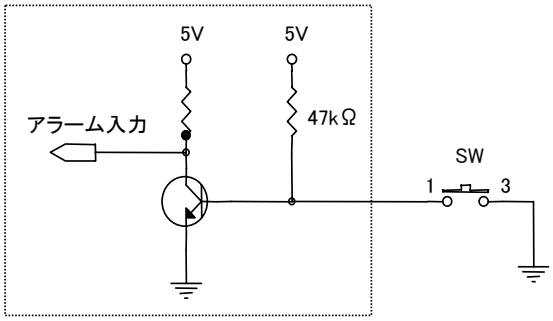
ホームポジション：電源投入後に表示されるカメラアングル
（ホームポジションを行わない場合は、工場出荷時設定になります。）

3.4 アラーム入出力端子

3.4.1 アラーム入力端子

16個のアラーム入力端子があります。アラーム入力信号で記録を開始することができます。接続にはシールド線を使用してください。





HDR内部の回路　　共通GND

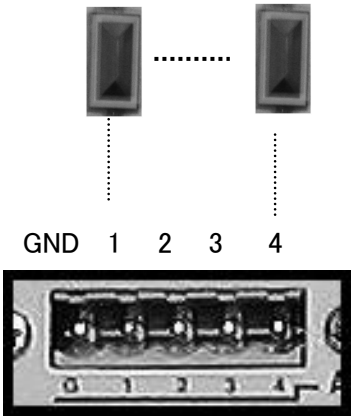
回路図

メイク接点の抵抗値は500Ω以下となるようにしてください。

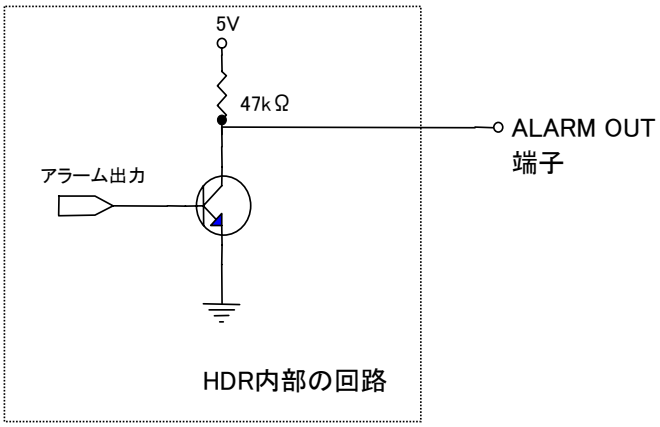
3.4.2 アラーム出力端子

モーション検出やアラーム入力に対応する4つのアラーム出力端子を備えています。メニューで各端子の出力条件を設定できます。接続にはシールド線を使用してください。

■ アラーム出力
・アラーム入力1～16か、イベント発生（HDD残容量無し、管理者パスワード変更、ビデオロス1～16、動き検出1～16）があったときに信号を出力できます。



ALARM OUT 端子



回路図

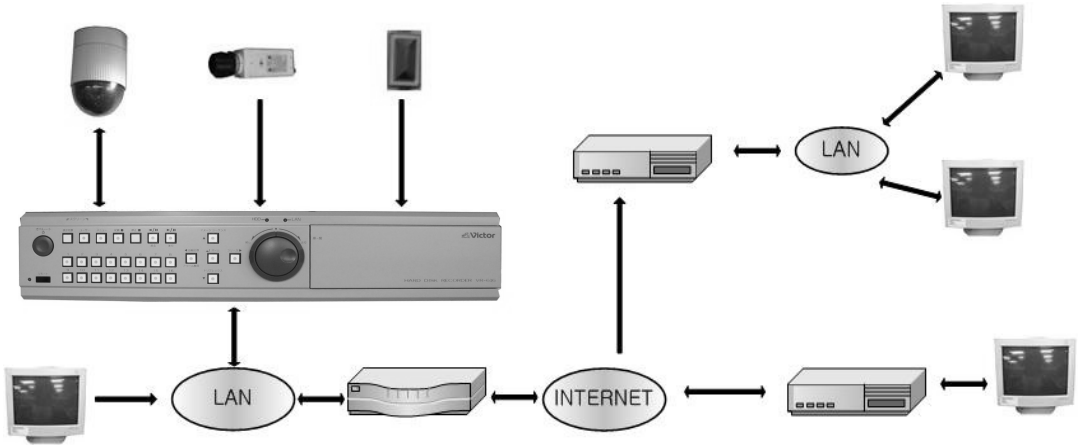
アラーム出力端子は5V TTL出力です。

3.5 ネットワーク

3.5.1 ネットワークの接続

以下のように10/100Mbpsネットワークに接続して下さい。遠隔からライブ画表示、再生、カメラ操作、ファイル転送が可能になります。

遠隔監視／遠隔再生／遠隔操作などの性能はネットワークの回線品質により決まります。回線品質が悪い場合は接続が切断されたり、映像の更新が遅くなることがあります。



ネットワークの構成

3.5.2 設定手順

1) ハブを使用してネットワークに接続できます。
2) メニューでネットワークの設定を行ってください。メニュー→システム設定→詳細設定→ネットワーク設定
3) 遠隔監視・遠隔操作のため、JAVAアプレットを使用しています。PCで Internet Exploler 5.5/ 6.0を使用してください。

3.5.3 ネットワークアドレス設定

IPアドレス　　:___.___.___.___
サブネットマスク　:___.___.___.___
ゲートウェイ　　:___.___.___.___
DNSサーバー　　:___.___.___.___
使用ポート番号　:___

アドレスの設定を行ってください。

- ・IPアドレス：これはTCP/IPプロトコルで通信するときに必要です。ネットワーク中で互いに異なる数値を設定するようにしてください。インターネットから操作する場合は、グローバルIPが必要です。
- ・サブネットマスク：アドレスの一部をマスクします。
- ・ゲートウェイ：異なる構造およびプロトコルのネットワークに接続する場合に必要です。
- ・DNSサーバー：インターネットに容易に接続できるようにします。IPアドレスの代わりにwww.xxx-company.comのような名前を使用できるようになります。
- ・設定値が分からないときは、ご使用のネットワークの管理者にお尋ねください。
- ・使用ポート番号：通信するポート番号を指定することができます。
  WWWが使用するHTTPでは通常80が使用されます。
- ・画質を"HQ3"、"HQ2"、または"HQ1"に設定したときは、ウェブブラウザは接続できません。クライアントソフトウェアは映像が更新されません。

3.6 遠隔ネットワーク操作

3.6.1 概要

遠隔地から記録映像を検索したり、ライブ画の確認ができます。
（再生画やライブ画の画質は記録画質およびネットワークの状況に依存します。）

■ 動作環境

CPU : 500MHz以上、RAM : 64MB以上、 OS : Windows 98/ Me/ 2000/ XP
ブラウザ : MS Internet Explorer 5.5/ 6.0

■ 設定手順

1) Webブラウザを立ち上げてください。
2) アドレス入力欄にHDRのIPアドレスを入力してください。

・ファイヤーウォールの設定はOFFにしてください。
・ボタンが表示されない場合は、下記のメニューバーをチェックしてください。
ツール → インターネットオプション → 全般 → インターネット一時ファイル → 設定 → 保存しているページの新しいバージョンの確認 → 自動的に確認する
・分割画面を表示する場合、表示画面はネットワーク条件により遅れることがあります。
・Internet Explorer は"オンライン"に設定してください。"オフライン"に設定してあると接続できません。

3.6.2 ウェブブラウザ

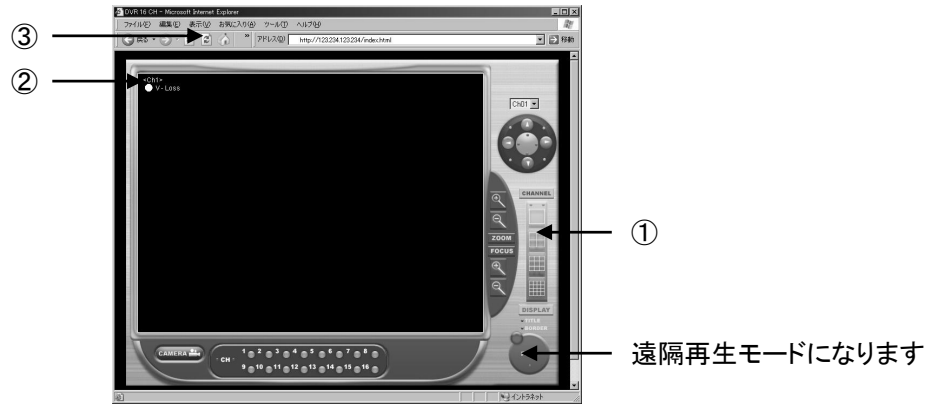
PCとネットワークでライブ画表示、再生、カメラ操作、ファイル転送が可能になります。

初めてウェブブラウザから本体に接続したとき、セキュリティ警告ウィンドウが表示されます。
インストールの可否を聞かれますが、"はい"を選択してインストールしてください。



ウェブブラウザ

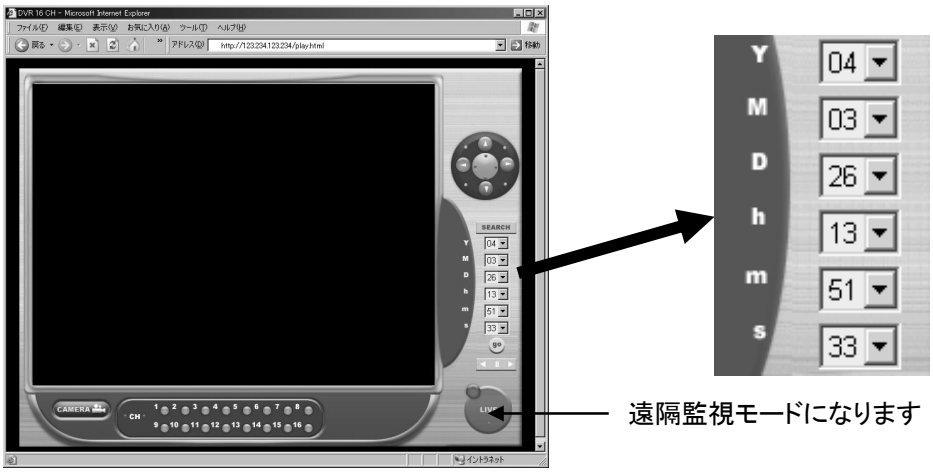
3.6.3 遠隔監視（LIVEモード）



①遠隔地から1/4/9/16チャンネル同時にライブ画を表示させることができます。
②ライブ画監視中にAlarm In端子からのアラーム入力があったとき、画面左上部に”Sensor”と表示されます。動き検出があったときは、”Motion”と表示されます。
③本体からの映像が更新されないときは、ブラウザの”更新”ボタンを押してください。
■ **遠隔操作**：ウェブ画面のボタンをクリックすると、通信制御カメラのパン/チルト/ズームができます。

通信制御カメラをネットワーク経由で操作するとき、ライブ画表示の分割画面数などによって、1クリックごとの動作量が変化します。微調整をしたいときは、フル画面表示が適しています。

3.6.4 遠隔再生



・再生画の検索ができます。日付と時間を指定して検索できます。

・遠隔監視は最大6ユーザーまで接続できます。接続できるクライアントの数は記録コマ数や画質の設定によっても増減します。
・遠隔再生ができるのは1ユーザーだけです。1ユーザーが再生しているときに他のユーザーが再生しようとすると、エラーメッセージが表示されます。
・遠隔監視ができるユーザーをパスワードで制限することができます。
（5.7.7.4 ウェブ用パスワード設定をご参照ください）
・システムの状態によって表示が遅れることがあります。
・遠隔監視の信頼性はインターネット接続の信頼性によります。
（インターネットが不調になったときはシステムを再起動してください。）
・バックアップ用に設定したHDDの記録映像は遠隔再生できません。

3.6.5 クライアントソフトウェア

ウェブブラウザを使う換わりに、本機に添付のCD-ROMにあるクライアントソフトウェアを使用すると、より高機能な操作ができます。
クライアントソフトウェアの機能には以下のものがあります。

- ライブ画表示:リアルタイムの監視映像を見ることができます。
- 検索　　:記録された映像の日時検索/イベント検索ができます。
- 再生　　:記録した映像データを再生することができます。
- カメラ制御　:通信制御カメラの制御ができます。
- ダウンロード(バックアップ):記録された映像データをPCへダウンロードできます。
  (電子透かし(Watermark)の付加が可能。)
- Windows Media Playerで再生可能なAVIフォーマットへの変換
- 電子透かしの検出

※インストーラー／メニュー項目／ボタンなどは、全て英語で表示されます。

■ CD-ROM の構成

CD-ROM にはソフトウェア本体及び取扱説明書が格納されています。

① “VR-616 Client SW”フォルダ
クライアントソフトウェア本体です。フォルダ内のsetup.exe を実行すると、インストールを開始します。

② "VR-616 ClientSW Manual(Japanese).pdf"
クライアントソフトウェアの取扱説明書(日本語版)です。

③ "VR-616 ClientSW Manual(English).pdf"
クライアントソフトウェアの取扱説明書(英語版)です。

④ "AdobeReader"フォルダ
本ソフトウェアの取扱説明書を参照するには、AdobeReaderが必要です。
"AdbeRdr60_jpn_full.exe"をダブルクリックすると、インストールを開始します。

■ 動作環境

必要なシステム

PC本体	種別	PC/AT互換機
	CPU	必須 : Pentium III 866MHz以上/推奨 : Pentium 4 1.8GHz以上
	グラフィックボード	Direct X サポート Direct Draw ビデオオーバーレイ対応 VGA (DirectX 8.X, 9.X) *1024 x 768以上、True color以上 *グラフィックメモリ 32MB以上 *オンボードビデオチップでは正常に動作しません。 nVIDIA GeForce FX5700 Ultra搭載のビデオカードで動作検証済みです。
	メモリ	256MB以上
	HDD	空き容量 12MB以上
対応OS	Windows 98/ 2000/ Me/ XP	

・上記はクライアントソフトウェアを快適にお使いいただくための目安であり、動作を保証するものではありません。
・必要システムを満たさない環境では、PCからの応答が遅くなることがあります。

※ 詳細な機能・操作方法については、添付CD-ROM内にあるクライアントソフトウェア取扱説明書をご参照ください。

4.基本的な操作

カメラの操作、記録条件、アラーム、音声、システム設定をメニューから設定できます。

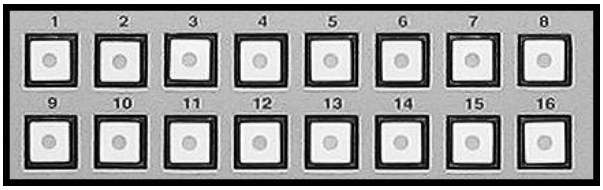
4.1 前面ボタン

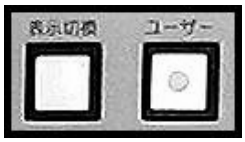
4.1.1 ご使用の前に

全ての機器が3.章に記載の通りに正しく接続されていることを確認してから、背面の電源スイッチを入れてください。この機器はAC 100Vを使用します。オペレートボタンを5秒以上長押しすると、起動します。

前面のオペレートボタンでON/OFFを行うようにしてください。背面の電源スイッチはオペレートOFFの状態でON/ OFFを切換えてください。オペレートONの状態でON/ OFFするとHDDが故障することがあります。

4.1.2 カメラ選択/表示切換/ユーザー/自動切換ボタン





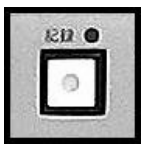
・ライブ画表示または再生中にカメラ選択ボタンを押すと、選択したチャンネルが表示されます。メニューでは設定チャンネルを選択するのに使用します。
・表示切換ボタンを押すと、ライブ画表示は1／4／9／16／10／7／6画面表示に切り替わります。再生中は1／4／9／16画面表示に切り替わります。
・ユーザーボタンを押すと、メニューで設定した配置で画面表示ができます。8パターンあります。（ライブ画表示のみ）



・単画面、分割画面を自動で切り換えることができます。自動切換ボタンを押すとON/OFFが切り替わります。
・通常モードでは、カメラシーケンス表示します。
・ユーザーモードではパターン切換になります。

・アラーム解除ボタンでアラーム出力を停止できます。

4.1.3 記録ボタン

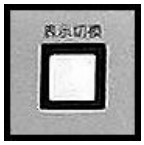


・記録ボタンを押すと、記録が開始します。記録中はLEDが点灯します。
また、アラーム記録中はLEDが点滅します。
記録中に、このボタンを押すと記録が停止します。

4.1.4 再生時に使用するボタン



・再生ボタンを押すと再生メニューが表示され、再生状態を選択して再生を開始します。再生中はLEDが点灯します。
（再生モードの詳細は、**5.9 再生メニュー**(P.78) を参照してください。）



・表示切換ボタンをライブ画表示や再生中に押すと分割画面表示できます。このボタンを繰り返し押すと、ライブ画表示は1／4／9／16／6／7／10分割画面、再生中は1／4／9／16分割画面に切り替わります。



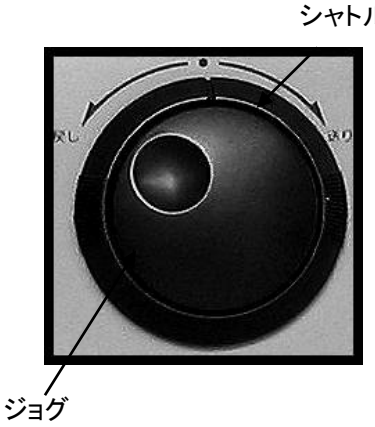
・イメージシーケンスボタン：再生画表示のとき4／9／16分割画面で時間毎に区切られた連続画面を表示できます。
（詳細は、**4.1.7 イメージシーケンス**(P.28) を参照してください。）



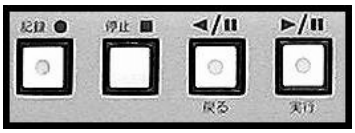
・ズームボタン：ライブ画、再生画の両方で2倍ズームできます。ズーム領域は左右ボタンと上下ボタンで移動できます。またズームした状態でも左右ボタンと上下ボタンで領域を変更できます。



・トリプレックスボタン：オーバーレイ画面表示できます。背景がライブ画、オーバーレイが再生画になります。
（詳細は、**4.1.7 トリプレックス**(P.28) を参照してください。）



・一時停止時には、ジョグでコマ送りができます。操作途中で回転方向を変えた場合、反応が遅れたり、記録された画がスキップされることがありますので、もう一度やり直してください。
・再生中にジョグでスロー再生が出来ます。スローの表示 ″|||►″が画面に出てからスロー再生が始まるまでに、しばらく時間がかかります。再生→スロー再生や、スロー再生→再生の移行中に再生ボタンを2回押すと、すぐに切換わります。
・メニューでは、ジョグで項目の選択、値の変更ができます。
・シャトルで高速サーチができます。



・再生モード時、ボタン上部の表示の動作をします。（記録、停止、一時停止／逆再生、一時停止／再生）
・メニューでは、下部の表示の動作をします。（戻る、実行）

4.1.5 メニューボタン



・メニューボタンを押すとメニュー画面が表示されます。ジョグで項目を移動し、実行ボタンで選択します。
・メニューの設定を変更するには、上下左右ボタン、戻る/実行ボタン、カメラ選択ボタンを使用します。

4.1.6 フリーズボタン



・フリーズボタンを押し、続いてカメラ選択ボタンを押すと、選択したチャンネルの静止画像になります。
・フリーズボタンを押すと、フリーズ LEDの点灯／消灯が切り替わります。フリーズ LEDが点灯している状態で、画面に表示されているチャンネルのカメラ選択ボタン（LED：点灯）を押すとオンスクリーンに″FZ″と表示され、カメラ選択ボタンのLEDは点滅し、フリーズ画面を表示します。フリーズを解除するには、点滅しているカメラ選択ボタンを再度押します。

4.1.7 イメージシーケンス／トリプレックスボタン

■ イメージシーケンス

・1つの再生チャンネルを時間分割して4／9／16分割画面で再生できます。再生したいチャンネルを再生時にボタンを押してください。4／9／16分割画面は表示切換ボタンで変更できます。



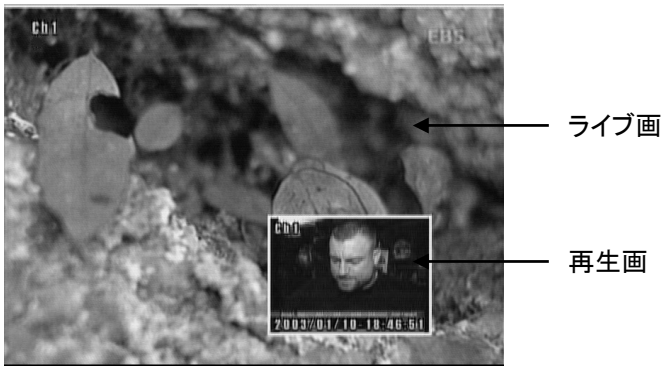
16分割のイメージシーケンス再生画面

■ トリプレックス

・オーバーレイ画面を表示します。ライブ画と再生画を同時に表示できます。再生を開始する前に見たいライブ画表示にして下さい。

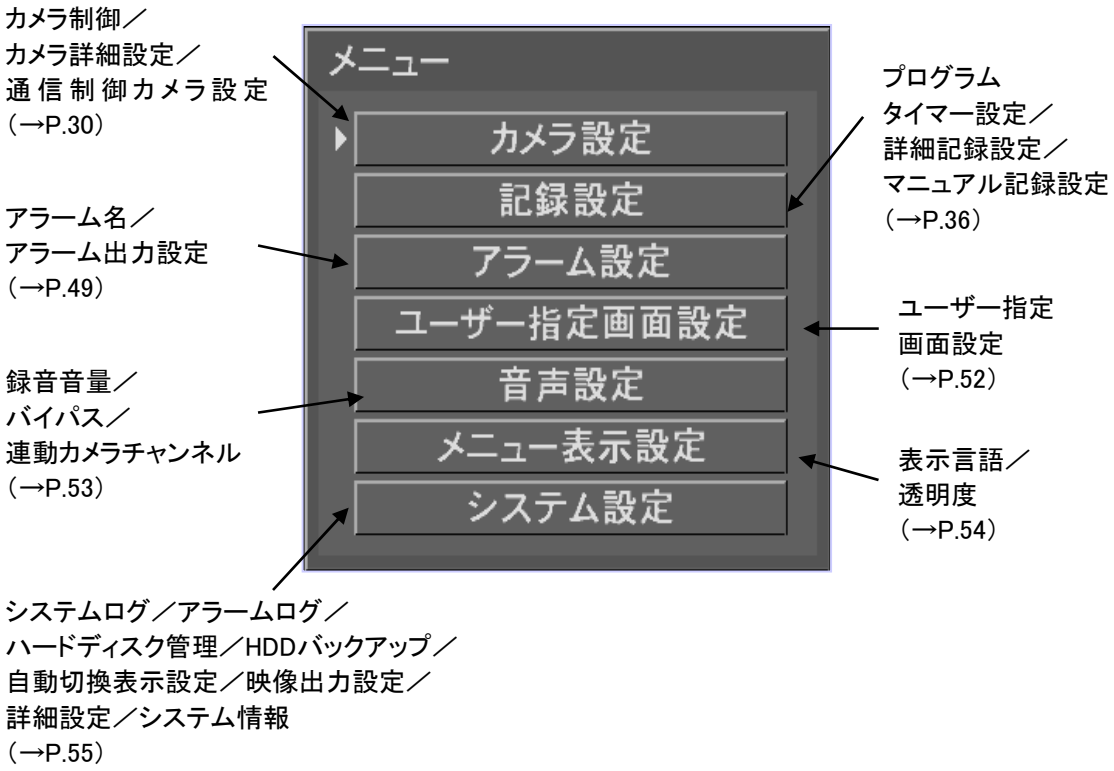
通常再生画面時にトリプレックスボタンを押すと、トリプレックス表示に切り替えられます。再度トリプレックスボタンを押すと、再生画の位置を変更できます。右下→左下→左上→右上→通常再生画面→右下・・・の順に切換わります。

再生画面のチャンネルを変更したい場合は、再生中にカメラ選択ボタンを押してください。



トリプレックス表示画面

5. メニュー設定

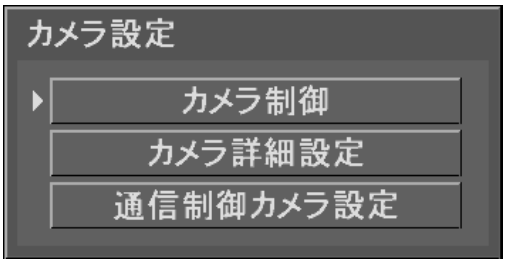


■ メニュー画面では、上下左右ボタン、実行／戻るボタン、カメラ選択ボタン、表示切換ボタン、ユーザーボタン、ジョグ、シャトルを使用します。

・上下ボタン：カーソルの移動、数値や文字の変更。
・左右ボタン：カーソルの移動。
・実行ボタン：次のメニューに進む、設定値の入力モードに入る。
　　チェックを付ける／外す。メニュー上のボタンを押す。
　　設定値の確定。
・戻るボタン：前のメニューに戻る。文字の削除。
・カメラ選択ボタン：設定するカメラチャンネルの変更。
・表示切換ボタン：タイマー記録設定の区間設定。
　　文字列の入力画面でスペースの挿入。
・ユーザーボタン：検索画面で、改ざん検出の有無を変更。
・ジョグ：カーソルの移動、数値や文字の変更。
・シャトル：通信制御カメラの操作。

上下ボタンを使用してカーソルを左右に動かすことがあります。

5.1 カメラ設定



入力される画像の設定と、RS-485に接続される通信制御カメラの設定ができます。

カメラタイトルや画質調整は通信制御カメラでなくても設定可能です。

5.1.1 カメラ制御

・RS-485 は長距離通信ができます。
・デイジーチェーンで複数台が接続できます。

システム例）
VR-616 1台、TK-S576B 8台、TK-S655 8台でシステムを構成できます。

5.1.1.1 通信制御カメラ



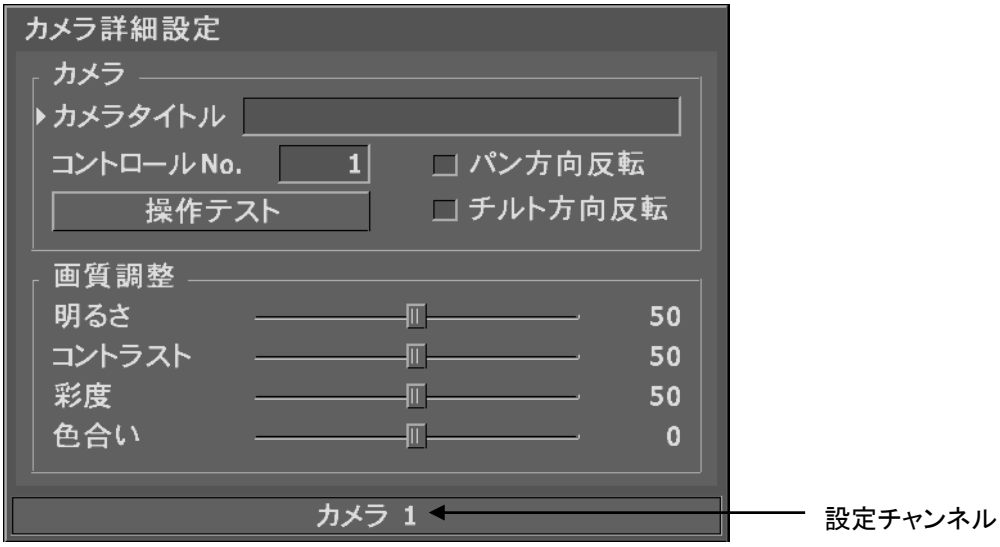
5.1.1.2 操作方法



1) カメラ詳細設定メニューでコントロールNo.を確認してください。
2) メニューからカメラ制御を選択してください。
3) 左右ボタンかジョグで動作を選択してください
4) シャトルを左右に動かしてください。
   ・通信制御カメラがアクティブにならないときは本体で設定したコントロールNo.と通信制御カメラのIDが一致していることを確認してください。
   ・また、通信制御カメラの制御線が正しく接続されているかを確認してください。
5) 戻るボタンを押すとカメラ設定画面に戻ります。

カメラ操作中は画面上表示は更新されません。また、日時は表示しません。

5.1.2 カメラ詳細設定



・カメラタイトル、コントロールNo.（通信制御カメラ）、画質調整（明るさ、コントラスト、彩度、色合い）をチャンネル毎に設定できます。

5.1.2.1 設定手順

1) カメラ選択ボタンで設定チャンネルを選択します。（メニュー画面下部に表示されます。）
背景が選択したチャンネルの画面になったことを確認してください。

2) 変更したい項目を上下ボタンかジョグで選択してください。

3) 設定したい項目上で実行ボタンを押すと、それぞれ次のようになります。
・カメラタイトル／コントロールNo.：設定変更モードになります。
・操作テスト：操作テスト画面になります。
・パン／チルト方向反転：チェックの有無を変更できます。
・画質調整：設定画面に移ります。

4) 下記のボタンを使って設定値を変更できます。
実行／戻るボタン：数値変更画面から抜ける。
左右 ボタン：カメラタイトル入力時、左右に移動します。
上下ボタン／ジョグ：文字や数値を変更します。

※ 通信制御カメラが接続されているときは、テストする前にコントロールNo.を設定します。

5.1.2.2 カメラタイトル設定

下に示すアルファベットと記号を使って16文字までのカメラタイトルを付けることができます。

使用可能文字

```
Blank ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 : ; < = > ?
@ A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
[ \ ] ^ _ ` a b c d e f g h l j k l m n o p q r s t u v w x y z { | } ~
```

入力方法

1) 実行ボタンで入力モードに入ります。
2) 上下ボタンかジョグで文字を選択、左右ボタンで文字列を左右に移動できます。
3) 戻るボタンで文字の削除、表示切換ボタンでスペースの挿入ができます。
4) 実行ボタンを押すと確定して終了します。

分割画面表示で、画面数が6以上のときには、カメラタイトルが表示しきれないことがあります。
このとき、表示できない部分は"．．．"と表示されます。

5.1.2.3 カメラ設定

カメラ設定 ： コントロールNo.、パン方向反転、チルト方向反転、操作テスト

1) コントロールNo.：通信制御カメラのコントロールに必要です。
接続されている各カメラに、別々の番号を設定してください。
（1～32までの数値が使用可能です。）
2) パン方向反転、チルト方向反転：通信制御カメラの動作方向を反転させます。
使用状態に応じて切り替えてください。
3) 操作テスト：通信制御カメラが正しく設定されたか否かをテストすることができます。
設定が終了したときのチェックに使用できます。

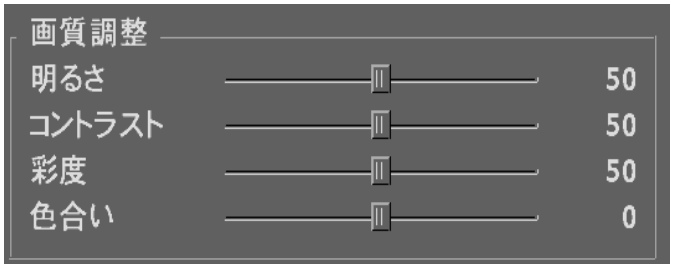
コントロールNo.には、通信制御カメラに設定したIDと同じ数値を設定してください。

5.1.2.4 画質設定

・入力チャンネル毎に、画質を設定できます。
明るさ/コントラスト/彩度については0～100の値に、色合いについては-128～127の値に設定できます。背景画面を見ながら適切な値に設定してください。

■ 設定手順

1) 上下ボタンかジョグで希望の設定項目に移動します。
2) 実行ボタンを押すと画面全体に画像が表示されます。
3) 上下ボタンかジョグで数値を変更できます。
4) 実行／戻るボタンを押すと、確定して元の画面に戻ります。



明るさ/コントラスト/彩度/色合いが設定できます。

5.1.3 通信制御カメラ設定



カメラドライバを選択してください。

■ 機種選択

1) 実行ボタンを押します。
2) 上下ボタンかジョグで機種を選択します。
3) 実行／戻るボタンで確定します。

※ TK-S576B / TK-S655と接続する場合は"JVC CAMERA"を選択してください。

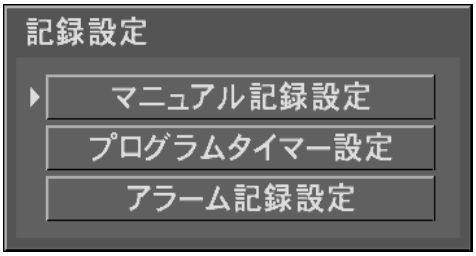


■ ボーレート（工場出荷時設定：9600 bps）

1) 実行ボタンを押します。
2) 上下ボタンかジョグでボーレートを選択します。
3) 実行／戻るボタンで確定します。

※ TK-S576B / TK-S655と接続するときは 9600bpsに設定してください。

5.2 記録設定



5.2.1 マニュアル記録設定

マニュアル記録とは、タイマーを使用せずに手動で開始や停止を行う記録のことです。記録ボタンを押すと記録を開始し、再度記録ボタンを押すと記録を停止します。



・"タイマー記録"チェックボックスでタイマー記録の有効/無効を切換えます。
実行ボタンを押すとチェックのON/OFFが切換えられます。
タイマー記録が有効の場合、マニュアル記録設定の設定にかかわらず、プログラムタイマー設定に従って記録をします。
マニュアル記録をしたい場合は、"タイマー記録"欄にチェックが無いことを確認してください。

・チャンネル選択領域の記号は以下を意味します。

- ● : 通常記録
- A : アラーム記録
- M : 動き検出記録
- fps/fps : 前半の "fps" は通常記録の記録コマ数です。
  後半の "fps" はアラーム記録/ 動き検出記録の記録コマ数です。

■ 設定手順

1) マニュアル記録設定画面でチャンネル選択領域にカーソルを合わせて、実行ボタンを押します。
2) 上下ボタンかジョグでチャンネルを選択します。
3) 実行ボタンを押すとイベント記録設定画面が表示されます。
   → **5.2.1.1 イベント記録設定**(P.37)をご参照ください。

入力のないチャンネルは記録設定にしないでください。通常記録、アラーム、動き検出のチェックを全て外してください。

5.2.1.1 イベント記録設定



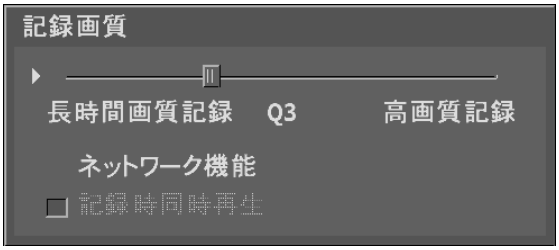
・通常記録のコマ数設定

・アラーム/動き検出記録のコマ数設定
（1F/1秒以下に設定できません。）

・チェックボックスで記録の有効/無効を変更できます。
実行ボタンでチェックの有無を変更します。
・通常記録：常に記録をします。
・アラーム：選択したアラーム入力があったとき、記録します。
・動き検出：設定したチャンネルで動き検出がされたとき、記録をします。

・記録コマ数の欄で、それぞれの記録コマ数を変更できます。
1) 記録コマ数の欄にカーソルを移動し、実行ボタンを押します。
2) 左右ボタンでコマ数/秒数のどちらを変更するか決定します。
3) 上下ボタンかジョグで数値を変更し、実行ボタンで確定します。
※ 記録コマ数は、チャンネル数により自動的に調節され、入力した記録コマ数と異なる値に設定されることがあります。設定を終了する前に、「マニュアル記録設定」画面で記録コマ数の確認を行なってください。

5.2.1.2 記録画質設定/音声設定

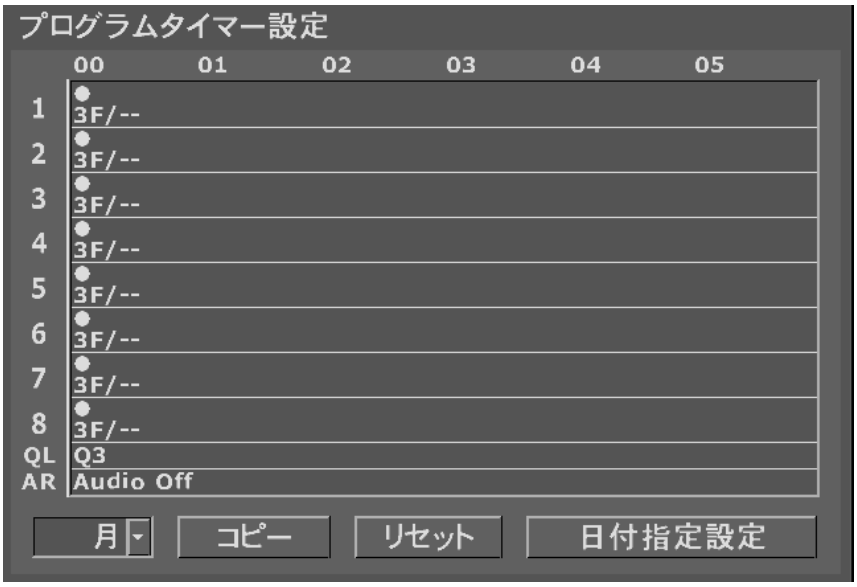


・″QA″行の左側の欄で実行ボタンを押すと、上図のように記録画質の設定ができます。
上下ボタンで記録画質を変更できます。カメラ毎に画質を設定することはできません。
設定範囲：Q1 – Q4、HQ1–HQ3（工場出荷時設定：Q3）
・画質をHQ1 – HQ3に設定したときはネットワーク機能が使用できなくなり、「ネットワーク機能」の文字が灰色になります。（ウェブブラウザは画が更新されません。クライアントソフトウェアは接続できません。）
・画質をHQ3に設定したとき、「記録時同時再生」の有効/無効を切換えられます。
「記録時同時再生」が無効のときに再生を実行しようとすると、「記録時同時再生が禁止されています。設定をご確認ください。」のメッセージが表示されます。
※ アラーム/動き検出記録の記録設定がしてあるときは、記録待機状態になっているため、記録中でないときも、再生を実行できません。

画質をHQ3に設定し、「記録時同時再生」を有効にした場合、最大記録コマ数がNTSC：32F/S、PAL：32F/Sに制限されます。

・″QA″行の右側の欄で音声記録の有無を選択できます。実行ボタンを押す毎に″Audio Off″と″Audio On″に表示が切り替ります。

5.2.2 プログラムタイマー設定



・日付、時間、チャンネルを指定してプログラム記録ができます。
・"日付指定"ボタンで日付指定タイマー設定もできます。
・メニューを抜けると画面右下に時計マークが表示され、タイマースタンバイ又はタイマー記録の状態になります。
本機には節電モードはありません。

・入力のないチャンネルは記録設定にしないでください。通常記録、アラーム、動き検出のチェックを全て外してください。
・タイマー設定を有効にするには、マニュアル設定画面の"タイマー記録"にチェックを付けてください。
→**5.2.1 マニュアル記録設定**（P.36）をご参照ください。

5.2.2.1 プログラム表の読み方

1) 時刻



・上側の数字は時刻を表示します。(00 ～ 23)

2) 記録チャンネル



・左側に表示された数字は記録チャンネルを表します。(1 – 16)

3) 記録画質(Quality Level), オーディオ記録 (Audio Recording)



・QL の行には記録画質を表示します。
・AR の行には音声記録の有無を表示します。

4) 記録の詳細表示



・● : 通常記録です。
・A : アラーム記録です。
・M : 動き検出記録です。
・F(fps)/F(fps) : 最初のF(fps) は通常記録時の記録コマ数を表示します。
2番目のF(fps)はアラーム/動き検出記録の記録コマ数を表示します。

例) 

左の表示の場合は、通常記録で、3fpsで記録を行います。



左の表示の場合は、通常記録なし、アラーム記録および動き検出記録ありで、4fpsで記録を行います。

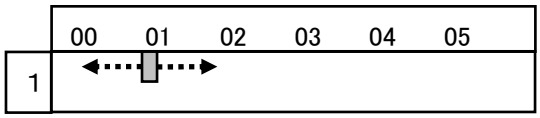
5.2.2.2 記録区間の設定方法

・プログラムタイマー設定は1時間を単位としたブロック毎に行います。
 ・記録予定のブロックは赤く、記録予定がないブロックは黒く表示されます。
 ・選択中のブロックは青く表示されます。
 ・時間の設定をするときには、黄色のバーが表示され、これを移動させて設定をします。

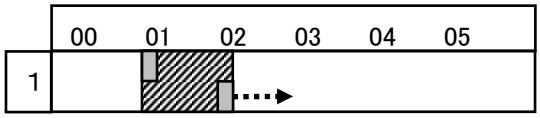
記録区間の設定はリモコンからはできません。本体の前面パネルのボタンを使用してください。

■ 設定手順

1) プログラムタイマー設定画面でチャンネル選択領域にカーソルを合わせて、実行ボタンを押す。
2) 上下ボタンかジョグでチャンネルを選択します。
3) 表示切換ボタンを押すと、開始位置を示す黄色のバー(上半分)が表示されます。



4) 左右ボタンを使用して、開始位置を決定します。
5) 表示切換ボタンを押すと、終了位置を示す黄色のバー(下半分)が表示されます。開始位置と終了位置の間は灰色で表示されます。



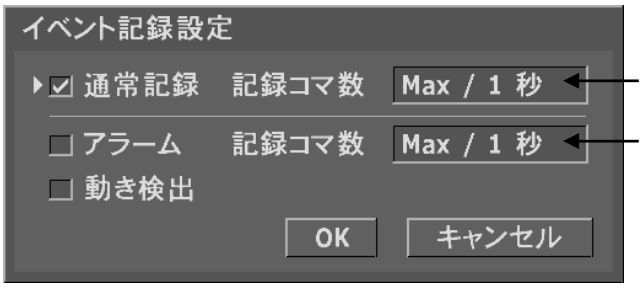
6) 左右ボタンを使用して、終了位置を決定します。
7) 実行ボタンを押すと、イベント記録設定画面が表示されます。
 → **5.2.2.3 イベント記録設定**をご参照ください。

※ 記録区間設定の途中で戻るボタンを押すと、設定をキャンセルできます。

5.2.2.3 イベント記録設定

・以下の手順でイベント記録設定画面が開くことができます。
(記録区間を変更しないとき)
1) プログラムタイマー設定画面でチャンネル選択領域にカーソルを合わせて、実行ボタンを押す。
2) 上下ボタンかジョグでチャンネルを選択します。
3) 左右ボタンで設定したいブロックに移動し、実行ボタンを押します。

(記録区間を変更するとき)
1)記録区間を設定し、実行ボタンを押します。
 →記録区間の変更については、**5.2.2.2 記録区間の設定方法**をご参照ください。



・通常記録のコマ数設定

・アラーム/動き検出記録のコマ数設定
（1F/1秒以下に設定できません。）

・チェックボックスで記録の有効/無効を変更できます。
実行ボタンでチェックの有無を変更します。
・通常記録：タイマー時間内に記録コマ数で記録を行ないます。
・アラーム：設定したチャンネルにアラーム入力がされたとき、記録します。
・動き検出：設定したチャンネルで動き検出がされたとき、記録します。

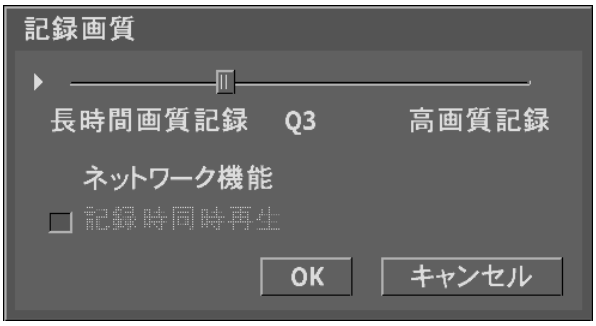
・記録コマ数の欄で、通常記録とアラーム・動き検出の記録コマ数を変更できます。
1) 記録コマ数の欄にカーソルを移動し、実行ボタンを押します。
2) 左右ボタンでコマ数/秒数のどちらを変更するか決定します。
3) 上下ボタンかジョグで数値を変更し、実行ボタンで確定します。

・設定が完了したら、「OK」ボタンを押すと設定内容が確定されます。
「キャンセル」ボタンか戻るボタンを押すと、設定をキャンセルできます。

※ 記録コマ数は、同一時間に記録をするチャンネル数により自動的に調節され、入力した記録コマ数と異なる値に設定されることがあります。プログラムタイマー設定を終了する前に、「プログラムタイマー設定」画面で記録コマ数の確認を行なってください。
※ 隣り合うブロックをまったく同じ設定にすると、1つのブロックになってしまうので、注意して ください。

5.2.2.4 記録画質設定

QL の位置のバーに移動して実行ボタンを押すと、記録画質ウィンドウが開きます。



■ 設定方法
1) スクロールバーにカーソルを移動して実行ボタンを押すと、画質設定を変更できます。
2) 上下ボタンで画質設定を変更したら、実行／戻るボタンを押して決定します。
3) 「OK」ボタンを押すと設定を確定します。
※ 「OK」ボタンを押す前に「キャンセル」ボタンか戻るボタンを押すと、設定をキャンセルできます。
・カメラ毎に画質を設定することはできません。
・設定範囲：Q1 – Q4、HQ1–HQ3（工場出荷時設定：Q3）

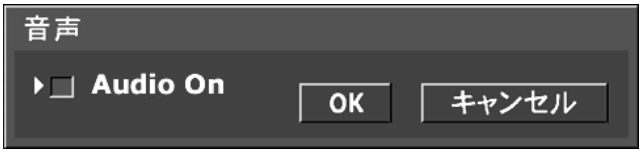
・記録画質設定は、記録時間の設定と同じ手順で1時間毎に設定できます。
（→**5.2.2.2 記録区間の設定方法**(P.40) をご参照ください。）

・画質をHQ1 – HQ3に設定したときはネットワーク機能が使用できなくなり、「ネットワーク機能」の文字が灰色になります。(ウェブブラウザは画が更新されません。クライアントソフトウェアは接続できません。)
・画質をHQ3に設定したとき、「記録時同時再生」の有効/無効を切換えられます。無効時に再生を実行しようとすると、「記録時同時再生が禁止されています。設定をご確認ください。」のメッセージが表示されます。
※ アラーム/動き検出記録の記録設定がしてあるときは、記録待機状態になっているため、記録中でないときも、再生を実行できません。

画質をHQ3に設定し、「記録時同時再生」を有効にした場合、最大記録コマ数がNTSC:32F/S、PAL:32F/Sに制限されます。

5.2.2.5 音声設定

AR の位置のバーに移動して実行ボタンを押すと、音声ウィンドウが開きます。



・Audio Onのチェックボックスに移動して実行ボタンを押すごとにチェックの有無が変更できます。
音声記録の有無を決定したら、「OK」ボタンを押すと確定します。
※ 「キャンセル」ボタンか戻るボタンを押すと、設定をキャンセルできます。

・音声記録設定は、記録時間の設定と同じ手順で1時間毎に設定できます。
(→**5.2.2.2 記録区間の設定方法**(P.40) をご参照ください。)

5.2.2.6 曜日設定

曜日表示の欄に移動して実行ボタンを押すと、曜日選択メニューが表示されます。



・上下ボタンかジョグで選択して実行/戻るボタンを押すと、プログラムタイマー設定をする曜日を変更できます。

5.2.2.7 プログラムコピー

「コピー」ボタンを押すと、プログラムコピーウィンドウが開きます。



・現在設定中のプログラムをコピーできます。(設定時に使用すると便利です。)

■ プログラムコピー(曜日)

・曜日単位の設定データコピーです。
・黒枠で囲まれているボタンが現在設定中の曜日です。
・他の「曜日」ボタンを押すと、選択/非選択を切替えられます。
・「コピー」ボタンを押すと、選択された曜日にプログラムがコピーされます。

■ プログラムコピー(カメラ)

・カメラ入力CH単位の設定データコピーです。
・「ソースカメラ」欄にカーソルを移動して実行ボタンを押すと、ソースカメラを選択できます。
・上下ボタンで希望のカメラ番号を選択して実行ボタンを押すとソースカメラに指定されます。
(ソースカメラに選んだカメラのボタンは表示されません。)
・1-16の「カメラ」ボタンにカーソルを移動して実行ボタンで押すと、選択/非選択を切替えられます。
・「コピー」ボタンを押すと、選択されたカメラ番号にプログラムがコピーされます。

5.2.2.8 リセット

「リセット」ボタンを押すと、リセットウィンドウが開きます。



・設定されたプログラムをカメラ入力CH単位で工場出荷時設定に戻します。

工場出荷時設定

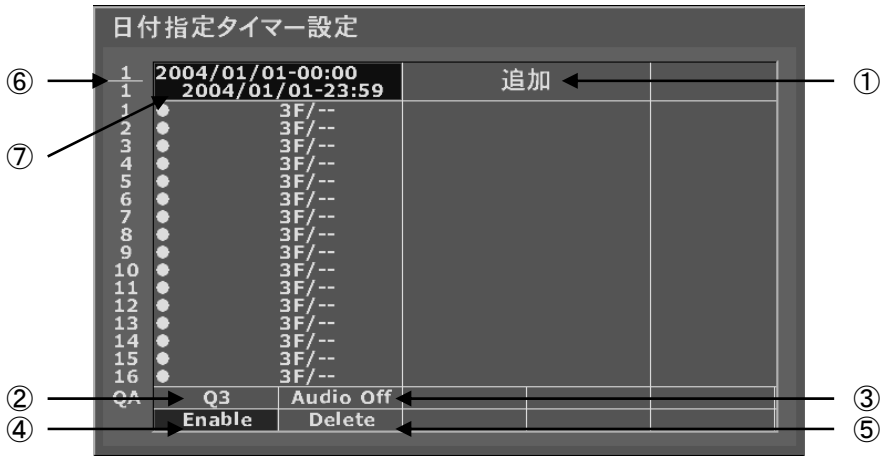
・カメラ1-16 : 24時間記録
・通常記録 : ON, Max/1秒
・アラーム記録 : OFF, Max/1秒
・動き検出記録 : OFF
・画質設定 : Q3
・音声設定 : Audio Off

■ 操作方法

・上下左右ボタンでリセットしたい項目を選択し、実行ボタンを押すと、選択/非選択が切替ります。
選択した項目のボタンは押された状態になります。
・「カメラ(1-16)」,「記録画質」,「音声」の各ボタンについて選択/非選択を決定し、「リセット」ボタンを押すと、選択した項目が工場出荷時設定にリセットされます。
・「全て」ボタンを押すと、カメラ1-16, 記録画質, 音声の全ボタンが選択されます。

5.2.2.9 日付指定タイマー設定

プログラムタイマー設定の画面で"日付指定設定"ボタンを押すと、日付指定タイマー設定ウィンドウが開きます。日付指定のタイマー設定ができます。

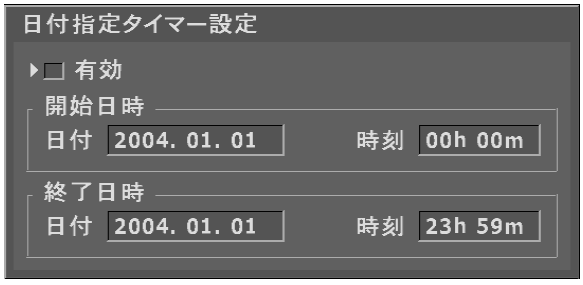


①カーソルを"追加"の位置に移動して、実行ボタンを押してください。日付指定タイマーは16プログラムまで設定できます。
②カーソルを記録画質欄に移動して実行ボタンを押すと、記録画質設定ができます。
③カーソルを音声欄に移動して実行ボタンを押すと、音声設定ができます。
→設定方法については **5.2.1.2 記録画質設定/音声設定**(P.37) をご参照ください。

④カーソルを"Enable"/"Disable"の位置に移動して実行ボタンを押すと、該当プログラムの有効/無効を設定できます。
⑤カーソルを"Delete"の位置に移動して実行ボタンを押すと、該当プログラムの削除ができます。

⑥日付指定タイマー設定画面の左上に表示される分数の意味は、分子＝設定中のプログラムの番号，分母＝設定したプログラム数です。

⑦カーソルをプログラム（開始時刻-終了時刻）が表示されている位置に移動して実行ボタンを押すと、プログラムの開始/終了時刻を変更できます。



1) 変更したい位置にカーソルを移動させます。
2) 上下左右ボタンで値の変更をして、実行／戻るボタンを押すと確定します。
※ ここでプログラムの有効/無効を切換えることもできます。
※ 終了時間を開始時間よりさかのぼった時間に設定すると入力エラー画面が表示されますので、修正してください。

・入力のないチャンネルは記録設定にしないでください。通常記録、アラーム、動き検出のチェックを全て外してください。
・実際の記録は終了時刻＋1分までとなります。

5.2.3 最大記録コマ数

本機が1秒間に記録できるコマ数は、入力チャンネル数によって以下のようになります。

■ 入力ビデオ信号モード:NTSC

1CH → 30F/S	2CH → 30F/S	3CH → 15F/S	4CH → 15F/S
5CH → 10F/S	6CH → 10F/S	7CH → 7F/S	8CH → 7F/S
9CH → 6F/S	10CH → 6F/S	11CH → 5F/S	12CH → 5F/S
13CH → 4F/S	14CH → 4F/S	15CH → 3F/S	16CH → 3F/S

入力チャンネル数によっては、最大記録コマ数が60にならない場合があります。
例)16CH → 16 x 3=48コマ、15CH → 15 x 3=45コマ、1CH → 1 x 30=30コマ

※ 画質をHQ3に設定し、「記録時同時再生」ONの場合は下の表のようになります。

1CH → 15F/S	2CH → 15F/S	3CH → 7F/S	4CH → 7F/S
5CH → 5F/S	6CH → 5F/S	7CH → 3F/S	8CH → 3F/S
9CH → 3F/S	10CH → 3F/S	11CH → 2F/S	12CH → 2F/S
13CH → 2F/S	14CH → 2F/S	15CH → 2F/S	16CH → 2F/S

■ 入力ビデオ信号モード:PAL

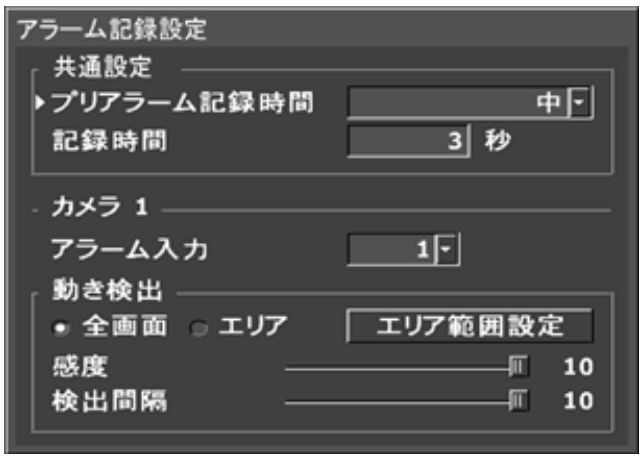
1CH → 25F/S	2CH → 25F/S	3CH → 12F/S	4CH → 12F/S
5CH → 8F/S	6CH → 8F/S	7CH → 6F/S	8CH → 6F/S
9CH → 5F/S	10CH → 5F/S	11CH → 4F/S	12CH → 4F/S
13CH → 3F/S	14CH → 3F/S	15CH → 3F/S	16CH → 3F/S

入力チャンネル数によっては、最大記録コマ数が50にならない場合があります。
例)16CH → 16 x 3=48コマ、15CH → 15 x 3=45コマ、1CH → 1 x 25=25コマ

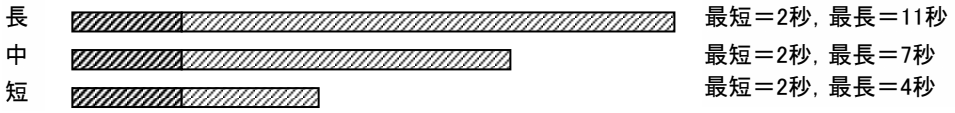
※ 画質をHQ3に設定し、「記録時同時再生」ONの場合は下の表のようになります。

1CH → 12F/S	2CH → 12F/S	3CH → 6F/S	4CH → 6F/S
5CH → 4F/S	6CH → 4F/S	7CH → 3F/S	8CH → 3F/S
9CH → 2F/S	10CH → 2F/S	11CH → 2F/S	12CH → 2F/S
13CH → 2F/S	14CH → 2F/S	15CH → 2F/S	16CH → 2F/S

5.2.4 アラーム記録設定

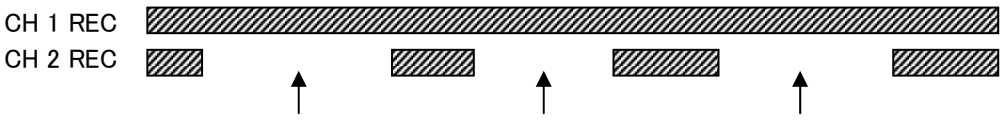


・アラーム検出 / 動き検出がされたときのプリアラーム記録とアラーム記録の時間を設定できます。プリアラーム記録時間や記録時間の位置にジョグや上下ボタンで移動し、実行ボタンを押すと、設定値の変更ができます。
（プリアラーム記録時間:"長"/"中"/"短"、記録時間:1-99秒）
・記録LEDおよびオンスクリーンの記録表示は実際の記録よりも数秒程度長く表示されます。
・アラーム入力(1-16) の設定をします。
アラーム入力の位置にジョグや上下ボタンで移動し、実行ボタンを押すと、アラーム入力チャンネルを選択できます。(1-16)
・アラーム記録する期間は、アラーム端子がメイクしている時間、メイク前のプリアラーム記録時間およびメイク後の記録時間です。
・プリアラーム記録時間は、画質設定と記録する映像によって変化します。高画質設定で、圧縮が難しい画像が入力されたときは、設定の長短に関係なく一定になります。



画質設定＝Q3で、標準的な画像の場合、長＝約7秒，中＝約5秒，短＝約3秒になります。

・アラーム記録などで断続して記録されているチャンネルの再生では、記録が途切れた区間で黒画面やフリーズ画の再生になることがあります。このような場合、停止ボタンを押してからイベント検索/日時検索を行なってください。
（(例)下図矢印の記録が途切れた区間）

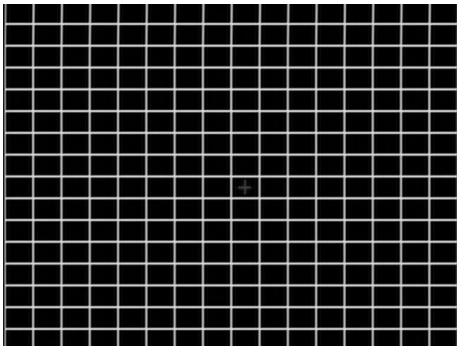


停止の状態からアラーム/動き検出により記録を開始した場合(センサー記録)、音声記録あり(On)に設定していても、音声の記録は行われません。

■ 動き検出設定

全画面 ：全画面のどこかで動きが検出されたときに記録を開始します。
エリア ：選択グリッド(☒)で動きが検出されたときに記録を開始します。
(グリッドはユーザーが設定できます。)

・″エリア範囲設定″ボタンを押すとエリアの設定ができます。



■ エリア設定の設定方法

1) エリア設定におけるジョグの方向

ジョグ方向	左右ボタン	上下ボタン
↘	↔	↕

2) エリア設定は上下左右ボタンかジョグで場所を移動できます。実行ボタンを押して選択／非選択を切換えます。選択した領域は緑色で表示されます。
3) 設定が終わったら、戻るボタンを押すとアラーム記録設定画面に戻ります。

■ 感度／検出間隔

・感度は動き検出の感度を表します。検出間隔は検出の速さを表します。
それぞれ、1～10の範囲で設定できます。



動き検出を動作させるには、マニュアル記録設定やタイマー記録設定で動き検出記録を設定しておく必要があります。検出エリアで動きを検出したとき、感度／検出間隔の値によって、記録を開始します。

設定手順

ⓐ 感度や検出間隔の欄にジョグや上下ボタンで移動し、実行ボタンを押すと、テスト画面が表示され、設定値の変更ができるようになります。検出エリアが緑色で表示され、検出したときにオレンジ色に変化します。
ⓑ 設定が完了したら、″戻る″または″実行″を押してアラーム記録設定画面にもどります。

・″感度″の設定値を大きくすると、検出感度が高くなります。
・″検出間隔″の値を増やすと更新スピードが速くなるので、速い変化に反応するようになります。
・記録中にエリア設定画面を開くと、動きが無くても動き検出のログが記録されることがありますが、記録は行われていません。
・設定が完了したら、必ず実動作の確認を行ってください。

5.2.5 記録時間表

・記録方式 : NTSC / PAL

・最大記録コマ数 : 60 F/S (NTSC)
: 50 F/S (PAL)
・記録チャンネル数 : 16 Ch

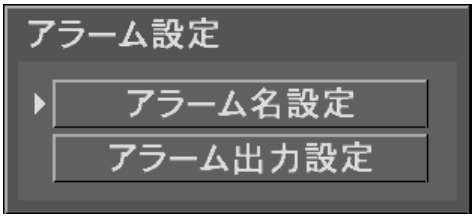
・解像度 : 720 x 240 (NTSC)
: 720 x 288 (PAL)

	記録コマ数									
画質	3F/ 1S	2F/ 1S	1F/ 1S	1F/ 2S	1F/ 3S	1F/ 4S	1F/ 5S	1F/ 6S	1F/ 8S	1F/ 16S
記録条件 HDD : 240 Gbyte, オーディオ記録 : あり										
HQ3	10	15	31	62	93	124	156	187	249	499
HQ2	10	15	31	62	93	124	156	187	249	499
HQ1	20	31	62	124	187	249	312	374	499	998
Q4	20	31	62	124	187	249	312	374	499	998
Q3	20	31	62	124	187	249	312	374	499	998
Q2	31	46	93	187	280	374	468	561	748	1497
Q1	41	62	124	249	374	499	624	748	998	1997
記録条件 HDD : 240 Gbyte, オーディオ記録 : なし										
HQ3	20	31	62	124	187	249	312	374	499	998
HQ2	20	31	62	124	187	249	312	374	499	998
HQ1	20	31	62	124	187	249	312	374	499	998
Q4	20	31	62	124	187	249	312	374	499	998
Q3	20	31	62	124	187	249	312	374	499	998
Q2	31	46	93	187	280	374	468	561	748	1497
Q1	41	62	124	249	374	499	624	748	998	1997
										(単位 : 時間)

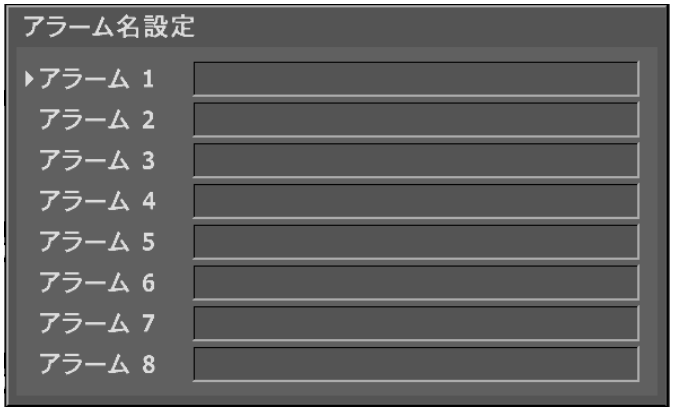
・記録設定の画質設定メニューで記録画質を変更できます。この記録時間表は最低保証値です。
通常はこの時間表よりも長く記録できます。
・上記の表で、画質が異なるのに記録時間が同じ部分がありますが、通常の記録では、記録時間は、
Q1 > Q2 > Q3 > Q4 > HQ1 > HQ2 > HQ3となります。

5.3 アラーム設定

アラーム設定はセンサーやブザーなどの外部機器に接続するときに使います。



5.3.1 アラーム名設定



■ 設定手順

1) 上下ボタンかジョグを使ってアラームチャンネルを選択する。
2) 実行ボタンを押します。
3) 上下ボタンかジョグを回すと、文字を変更できます。
   戻るボタンで文字を削除できます。
   表示切換ボタンでスペースを挿入できます。
4) 実行ボタンで確定します。

※ アルファベットと記号を16文字まで入力できます。

アラーム名はシステムログ（アラームログ）とメール発信時に記載されます。

5.3.2 アラーム出力設定



アラーム出力番号
図では アラーム出力 1

・16チャンネルのアラーム入力と4チャンネルのアラーム出力があります。
・4チャンネルのアラーム出力の条件をそれぞれ設定します。

1) アラーム:どのアラーム入力があったときにアラーム出力するかを設定します。何個でもチェックできます。
2) イベント:アラーム出力するイベントを選択できます。イベントには次のものがあります。HDD残量なし／管理者パスワード変更／ビデオロス1～16／動き検出1～16
3) アラーム解除:
   ・手動:フロントにあるアラーム解除ボタンを押すと、アラーム出力が停止します。
   ・自動:設定時間の後、自動でアラーム出力が停止します。
   解除までの時間が1～300の範囲で設定できます。(単位:秒)
4) アラーム出力番号:設定中のアラーム出力番号を表示します。

・アラーム出力は、各種アラームが検出されてから、約2秒以内に出力されます。
・アラーム出力設定のアラーム入力1～16はアラーム記録設定で設定したアラーム入力番号に従います。
・アラーム出力中は、オンスクリーンの日付表示の左に"AL"が表示されます。

5.3.2.1 アラーム入力

1) 上下ボタンかジョグで設定したいアラーム入力を選択します。
2) 実行ボタンで選択／非選択を切換えます。

5.3.2.2 イベント

・上下ボタンかジョグで検出したいイベントを選択して実行ボタンでチェックしてください。

・各イベントが検出される条件は以下の通り。
  ・HDD残量なし:HDDが記録で一杯になったとき。
  ・管理者パスワード変更:管理者パスワードが変更されたとき。
  ・ビデオロス:ビデオロスが発生したとき。1～16チャンネル／全てのチャンネルから選択できます。
  ・動き検出:動き検出されたとき。1～16チャンネル／全てのチャンネルから選択できます。

5.3.2.3 アラーム解除

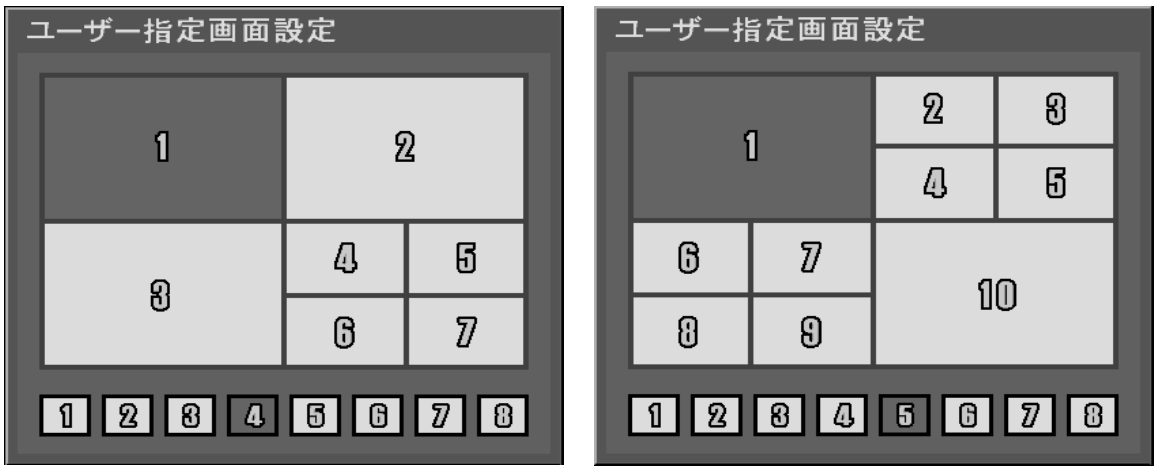
・アラーム出力を停止する条件を設定できます。
  ・手動:前面パネルのアラーム解除ボタンを押したときに解除されます。
  ・自動:設定した時間が経過すると、自動で解除されます。
  ・時間(秒):自動解除の時間を設定します。(1～300秒)

5.3.2.4 アラーム出力チャンネル

・設定したいアラーム出力チャンネルを表示します。
  カメラ選択ボタン(1～4)で変更できます。
・アラーム出力端子についての説明は、**3.4.2 アラーム出力端子**(P.19) を参照願います。

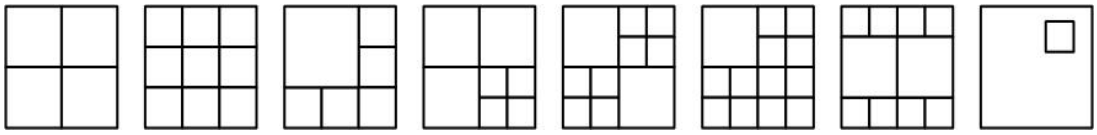
5.4 ユーザー指定画面設定

ユーザーボタンを押したときに表示する分割画面の設定ができます。
8つの分割パターンをそれぞれ設定できます。



■ 設定手順

1) 8種類の分割画面パターンの中から設定したいパターンに左右ボタンで合わせます。



2) 表示したいチャンネルを配置する。
・1 青色の画面の位置に表示させたいチャンネルをカメラ選択ボタンを押して決定する。
・2 上下ボタンかジョグを使って青色の画面を移動する。
・3 ・1～・2を繰り返す。
・4 終了したら、実行ボタンか戻るボタンを押す。
3) 他のパターンを設定をする場合は左右ボタンを押してください。

4) 設定が終わったら、メニューを終了します。ユーザーボタンを押し、ユーザー画面モードでカメラ選択ボタン1～8を押すと、番号に対応した分割パターンのユーザー画面が表示されます。

5.5 音声設定



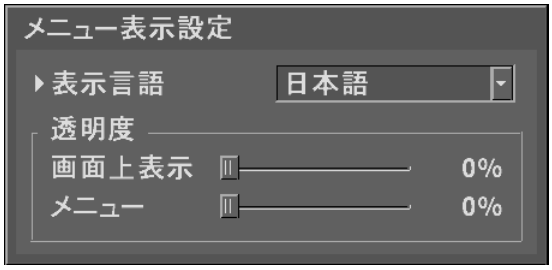
・音声 は1チャンネルだけ記録できます。
・サンプリングレートは8kHzです。
・入力音声をバイパスして音声出力端子に出力可能。
・音量制御は0～5に設定できます。
・記録設定メニューで音声記録を設定すると、音声の記録ができます。

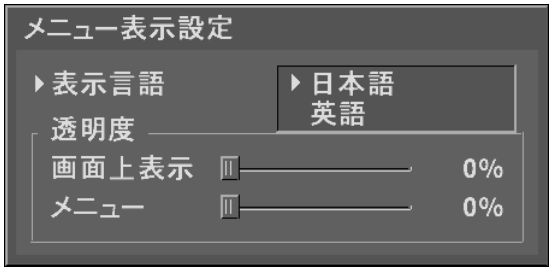
音声入力のレベルが大きいときに、音声出力が音割れすることがあります。このようなときは、音声入力のレベルを小さくしてください。

■ 設定手順

1) メニューから音声設定を選択します。
2) バイパスをチェックすると、音声出力端子から入力音声をリアルタイムで聞くことができます。
3) 音声記録するには
  ・1 音声設定で連動カメラチャンネルを選択する。
  ・2 記録設定で音声記録の欄に″Audio On″を表示させる。
  ・3 記録設定で連動カメラチャンネルに指定したチャンネルを記録に設定する。
4) 実行ボタンか戻るボタンを押して終了する。
5) 記録ボタンを押すと音声が記録される。

5.6 メニュー表示設定





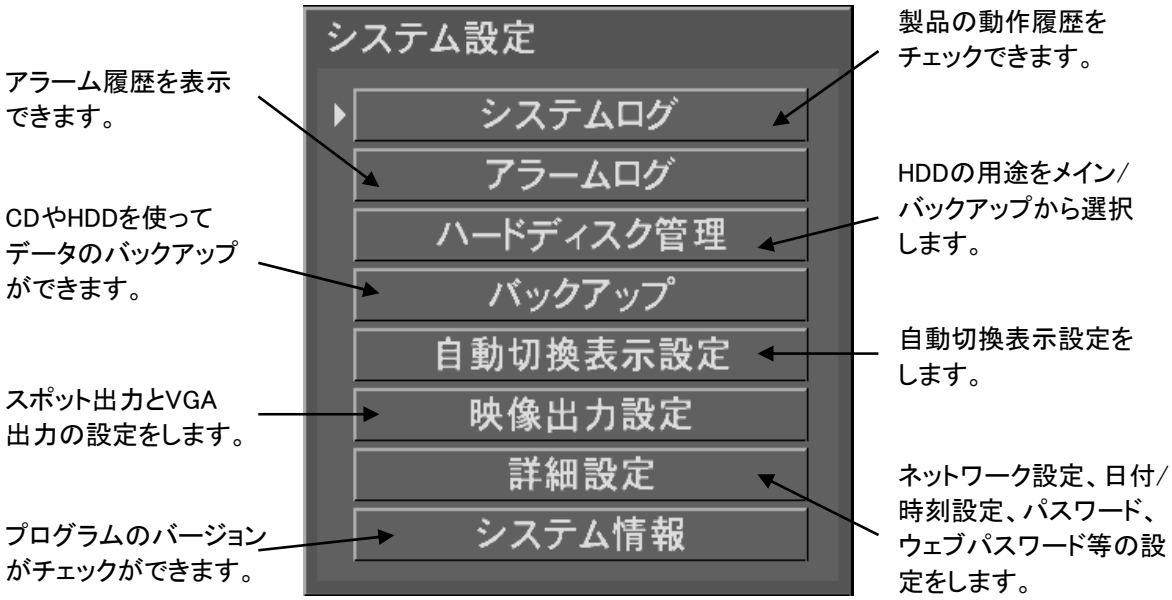
・メニュー言語を英語、日本語から選択できます。
・画面上表示：画面に表示される状態表示の透明度を調節できます。
（カメラタイトル、記録状態表示、時計、HDDの記録量表示）（0～80%）
・メニュー：メニュー画面の透明度を調節できます。（0～80%）

メニュー設定中は画面上表示は更新されません。

■ 設定手順

1） メニューからメニュー設定を選択し、上記画面を表示させます。
2） ジョグで設定したい場所に移動します。
3） 言語の設定をしたい場合は、言語の場所で実行ボタンを押してから言語を選択します。
4） 画面上表示（カメラタイトル、記録状態表示、時計、HDD記録量表示）の透明度を変更したい場合は、実行ボタンを押してから上下ボタンかジョグで値を変更します。
5） メニューの透明度を変更したい場合は、MENUにカーソルを合わせ実行ボタンを押してから、ジョグで値の変更をします。
6） 実行ボタンか戻るボタンを押すと設定を終了します。

5.7 システム設定



5.7.1 システムログ



・ログはオペレートON中の動作を記録します。
・日付・時刻やログの種類を選択して検索ができます。

■ 検索手順

1) オペレートON中の動作が表示されます。
2) システムログを以下の手順で確認出来ます。:
・1) 検索する開始を上下ボタンかジョグで設定します。
左右ボタンで年／月／日を選択します。
ジョグで年／月／日を変更します。
・2) ログ表示で検索する項目を選択できます。
・3) ″表示開始″ボタンを押します。

動き検出してアラーム記録が開始されてから、再度動き検出されたとき(リトリガー)は、ログに記録されません。



・システムログ表示画面において、上下ボタンまたはジョグでログを選択して実行ボタンを押すと、ログが記録された時刻から再生を開始します。ログが記録されたときの記録が無い場合には、その近くから再生します。停止ボタンを押すとシステムログ画面に戻ります。
・HDD1台ごとにシステムログの検索・表示を行います。左右ボタンで該当する検索条件で前後のHDDを検索します。
・システムログはHDD1台当たり25万件まで記録でき、これを超えた場合は上書き・消去されます。
・システムログは通常、時間順に整列して表示されますが、ログが25万件を超えて上書きされたときなどは、時間順に整列して表示されないことがあります。
・システムログはハードディスクの残量が無くなってからも記録を続けます。25万件を超えてログが記録され続けたときには、記録映像とログの不一致が起きることがあります。これを避けたいときには、”HDDの残量がなくなった場合、自動的に上書きをする” にチェックを付けてご使用ください。
・上書き記録モードでお使いの場合、HDDに記録映像が残っている部分より過去のログを指定して再生した時、上書きモードで記録されていると、最新の映像にジャンプすることがあります。このような場合、”繰り返し再生”にチェックをすれば、最新映像の再生に続いて最古の映像を再生することができます。

■ ログ画面

ログ画面は以下の内容を表示します。

アラーム入力 1-16
ビデオロス
ネットワークアクセス
動き検出
ディスクフル
電源 ON/OFF
設定変更

5.7.2. アラームログ

・アラーム入力および動き検出の時間とCHを表示します。

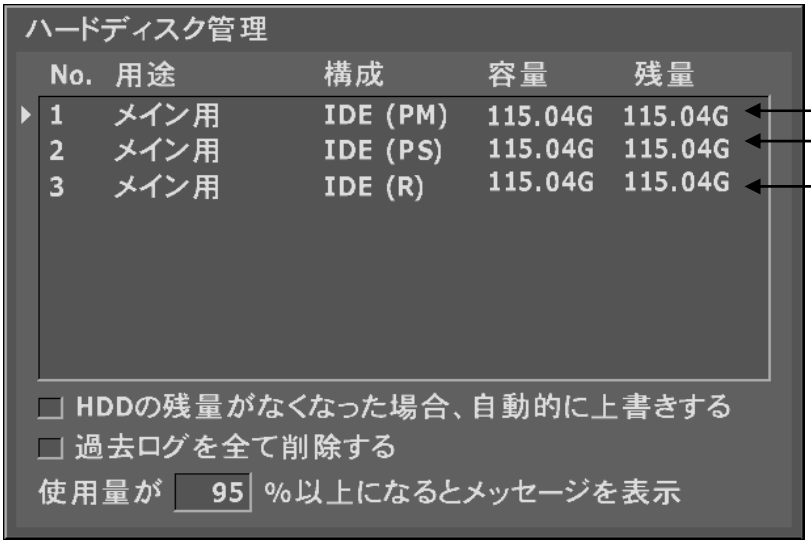


ログを表示している
HDD番号です。

・HDD1台ごとにアラームログの検索・表示を行います。左右ボタンで該当する検索条件で前後のHDDを検索します。
・アラームログ表示画面において、上下ボタンまたはジョグでログを選択して実行ボタンを押すと、ログが記録された時刻から再生を開始します。停止ボタンを押すとアラームログ画面に戻ります。
・アラームログはシステムログで設定した日時にしたがってログを表示します。

5.7.3 ハードディスク管理

・HDDの状態を表示します。



内蔵HDD（1台目）の
状態です。容量
120GB, 残量120GB

内蔵HDD（2台目）の
状態です。

リムーバブルHDD
の状態です。

・記録している状態でHDD管理メニューを開くと、管理情報の読出し時に一旦記録を停止します。管理情報の読出しが完了すると、記録を再開します。
・ハードディスク管理メニューを開いたとき、ネットワーク通信が一時停止します。
・HDDの容量は、1GB = 1024 x 1024 x 1024 Byteで計算して表示するため、実際の容量よりも小さく表示されます。

5.7.3.1 ハードディスク情報

任意のHDDにカーソルを合わせて実行ボタンを押すと、HDDの情報を表示できます。



内蔵HDDの情報を表示できます。



外付けIEEE1394HDDの情報を表示できます。「詳細表示」ボタンを押すと、該当HDDのアクセスLEDが点灯します。

容量・残量は、1GB = 1024 x 1024 x 1024 Byteで計算して表示するため、実際の容量よりも小さく表示されます。

■ ハードディスク用途変更

・「メイン用」/「バックアップ用」と表示されている部分にカーソルを合わせて実行ボタンを押すとHDDの用途を変更できます。
　・メイン用　　：通常の記録に使用します。
　・バックアップ用　：バックアップに使用します。
・バックアップ用HDDは1台のみ設定できます。あるHDDの用途をメイン用からバックアップ用に変更するときに、元々バックアップ用に設定されていた別のHDDがあれば、自動でメイン用に用途が変更されます。
・No.1のHDD（プライマリ マスタ(PM)）はメイン用にのみご使用いただけます。

リムーバブルHDDをバックアップ用途に設定すると、このHDDの記録映像は遠隔再生できません。

■ 詳細表示

・外付けIEEE1394HDDの情報表示では、「詳細表示」ボタンが表示されます。このボタンを押すと、該当HDDのアクセスLEDが点灯します。

■ 初期化

・メイン用HDDを選択して「初期化」ボタンを押すと、″選択したHDD x 以降のメイン用HDDは全て初期化されます。よろしいですか?″と表示されます。「はい」ボタンを押すとHDDが初期化されます。指定したHDD以降のメイン用HDDが全て初期化されますのでご注意ください。
・バックアップ用HDDを選択して「初期化」ボタンを押すと、″HDD x の全てのデータは削除されます。よろしいですか?″と表示されます。「はい」ボタンを押すとHDDが初期化されます。

ハードディスクを初期化しても、システムログは消去されません。

5.7.3.2 上書き設定

・「HDDの残量がなくなった場合、自動的に上書きする」のチェックの有無により、上書きのON/OFFを切換えられます。
・上書きのON/OFFによってモニター画面の表示が異なります。

上書き ON 

・メインHDDの残量が無くなったとき、古いDATAの上書きを開始する。日時のみ表示します。

上書き OFF 

・メインHDDの残量が無くなったとき、記録が停止します。日時の右側にHDDの残量を表示します。

5.7.3.3 過去ログの削除

・システムログに入っているすべてのログを削除します。
・「過去ログを全て削除する」にチェックを付け、戻るボタンを押すと、″HDD情報を更新しますか？″とメッセージが表示されます。「はい」を選択すると、ログ情報を削除できます。
・ HDDの用途を変更したときは、ログの初期化を推奨します。

5.7.3.4 HDD残量警告表示

・上書き設定OFFのとき、HDD残量が減少したときに、警告を表示できます。
・「使用量が x %以上になるとメッセージを表示」の位置にカーソルを合わせて実行ボタンを押すと、HDD残量の警告を表示する割合を設定できます。



・ハードディスク管理画面で指定した容量を超えたときに、モニター画面に表示されます。

5.7.3.5 リムーバブルHDDの増設方法

増設HDD／外部増設機器の導入について
接続可能なリムーバブルHDDの機種については、ご購入の販売店にご相談ください。

1) HDDの追加

① HDDを追加するときは、電源をoffにしてください。
② バックアップ用 HDD は1つだけ設定できます。
③ HDDの増設を行ったときは、データの初期化を推奨します。



メイン用

IDE1 : マスター (内蔵 HDD)



メイン／バックアップ用



IDE1 : スレーブ (内蔵 HDD)　　**IDE2 : スレーブ (リムーバブル HDD)**

HDDの増設や取り外しの途中で失敗をすると、HDDの内容が消えてしまうことがあります。
(例 メイン用HDDをバックアップ用に変更したり、メイン用HDDをバックアップ用HDDに変更するとき)

■ リムーバブルHDDの追加手順

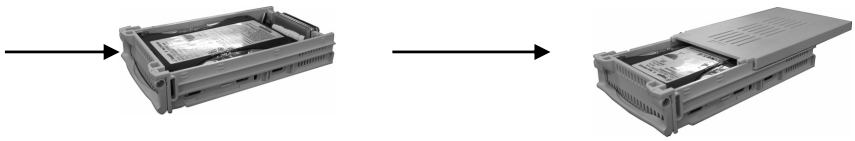
増設するHDDのジャンパーをスレーブに設定します。(ジャンパーの設定については、HDDの取扱説明書をご参照ください。)



ラックからHDDケースを取り出します。

ハンドルを持ち上げたままHDDケース側面のツメを外し、HDDケースの上蓋をスライドさせて外します。

IDEケーブルと電源ケーブルを確実に接続し、HDDをケースに入れます。



4本のネジを使ってHDDをケースに固定します。

HDDケースの上蓋を閉めます。

・HDDの増設や取り外しをするときは、電源をOFFにして下さい。電源ONの状態で増設や取り外しをすると、HDD故障の原因になります。
・故障を避けるため、HDRに外付けIEEE1394機器を接続するときには、電源を切った状態で行なってください。
・記録中はHDD構成を変更しないでください。記録中にHDD構成を変更した場合、HDD構成変更以前のイベント検索ができなくなります。
・HDDに異常が発生したときにエラーが表示されますが、使用するHDDによってはエラー表示を正しく表示できないため、目安としてお使いください。オペレートボタンのOFF/ ONによって異常のあるHDDが切り離されますので、“詳細表示”ボタンにて問題のHDDを特定してください。

5.7.4 バックアップ



・メインHDDのデータの一部をバックアップします。
・バックアップHDD、CD-R/RWにバックアップできます。

■ 操作手順

1) 左右ボタンとジョグを使って開始/終了日時を設定します。
2) "改ざん防止"にチェックを付けると、バックアップ時に画像に電子透かしを付け、再生時に改ざんを検出できます。
3) "バックアップ"ボタンを押すとバックアップが開始します。
4) バックアップするデータが無いとき、"バックアップデータなし"と表示されます。
5) バックアップHDDが無いとき、"バックアップHDDがありません"と表示されます。
6) CD-Rへのバックアップ中に中断するとCD-Rが使用できなくなることがあります。

・バックアップの開始/終了時刻には、映像が記録されている時刻を設定してください。
・CD-R/RWやHDDの空き容量を超えた設定でバックアップを実行したときは、空き容量が無くなった時点でバックアップを終了します。



・バックアップHDDが無いときの表示



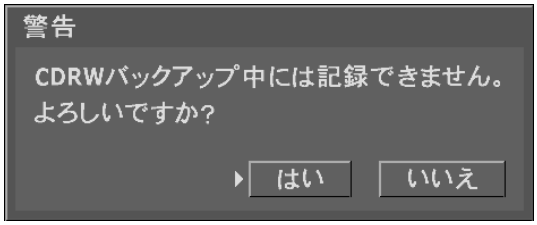
・バックアップするデータが無いときの表示



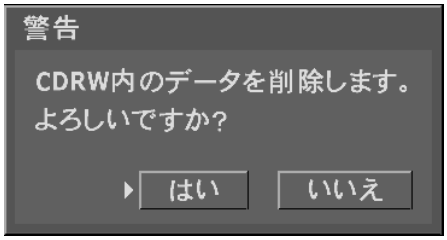
・CDにバックアップする際にCD-Rドライブが無いとき。



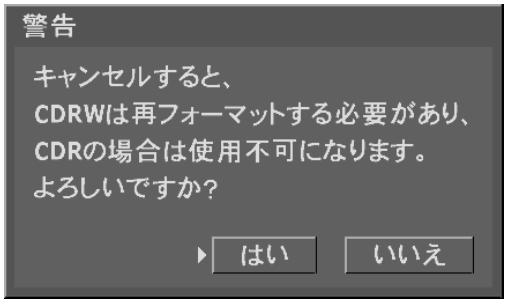
・CDにバックアップする際にCDが無いとき。



・CDへのバックアップ中は記録中が行われません。



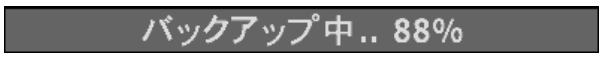
・CD-RWの消去中は記録が行われません。



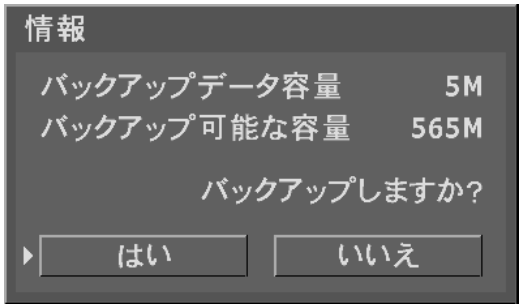
・バックアップ中に中断するとCDが使用できなくなります。



・準備中です。



・バックアップ中です。



・CDの残容量です。



・バックアップが完了しました。

5.7.5 自動切換表示設定



・自動で切り換える表示時間とビデオロス非表示の選択をおこないます。
・4分割画面表示のときは、Ch1-4、Ch5-8、Ch9-12、Ch13-16をそれぞれ1つのブロックとして、ブロックごとの画面切換になります。

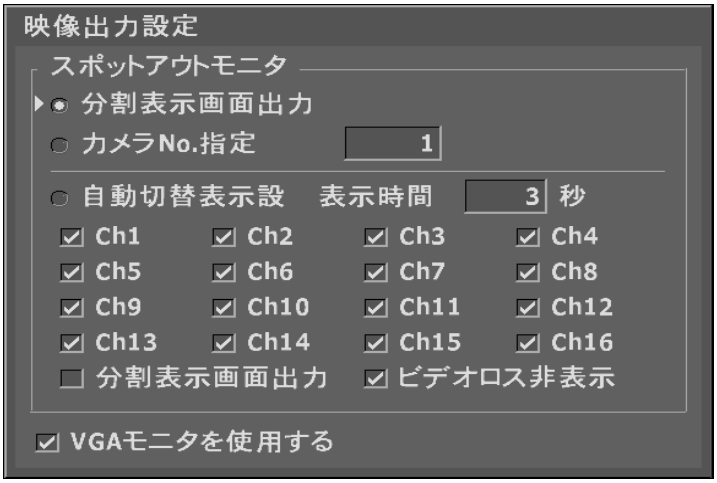
■ 設定手順

1) 自動切換をする間隔を1～300秒の範囲で設定できます。
2) 自動切換表示するチャンネルを選択してください。
3)「ビデオロス非表示」をチェックすると、ビデオロスのチャンネルを表示しなくなります。

※ 分割画面表示のときは、表示選択をしていないチャンネルやビデオロスのチャンネルも表示されます。
※ 4分割画面表示のときは、1ブロック中の全てのチャンネルが非選択のとき、そのブロックはスキップされます。

・画面が切換えられる瞬間に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

5.7.6 映像出力設定



・スポットモニター出力の種類を選択してください。
 ・分割表示画面：モニター出力端子と同じ映像です。
 ・カメラNo.指定：選択したチャンネルの映像を出力します。
 ・自動切換表示：表示したいチャンネルを選択します。ビデオロスのチャンネルを非表示にしたり、分割表示画面を自動切換に組込むことができます。また、表示間隔を設定できます。

・VGAモニタを使用する場合はチェックを入れてください。（コンポジット出力/S端子出力を使用する場合はチェックしないでください。）

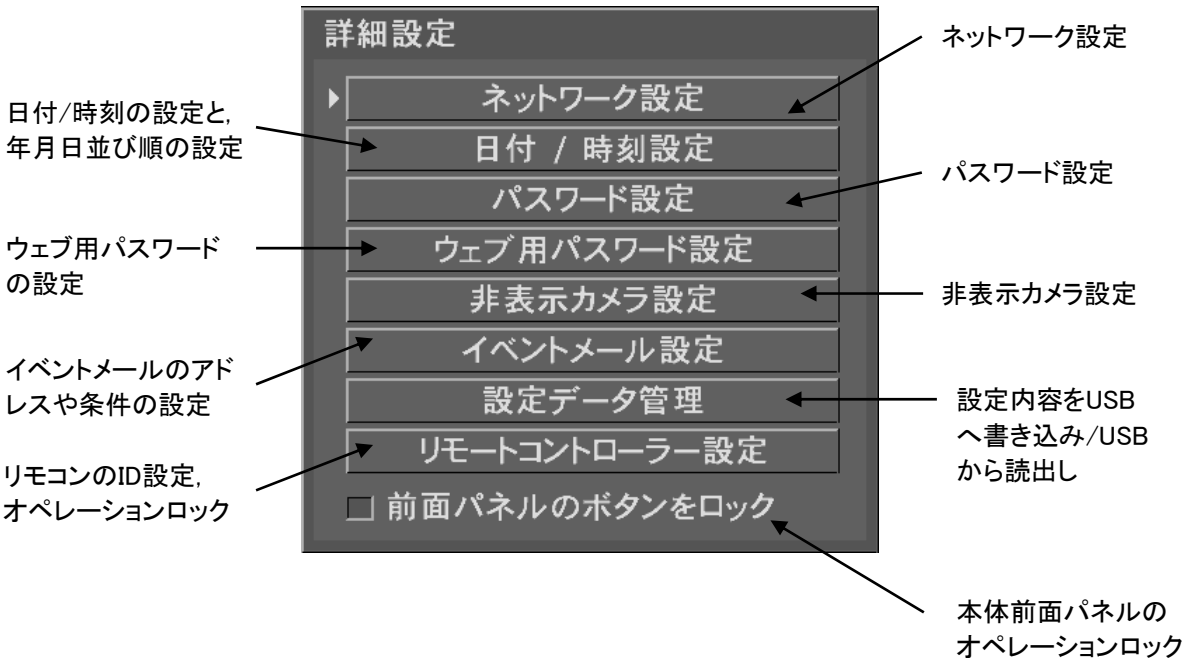
・VGA OUT端子からの出力を有効にするには、メニューを開かずに停止ボタンと表示切換ボタンを3秒間長押しすることでも可能です。

■ 設定手順

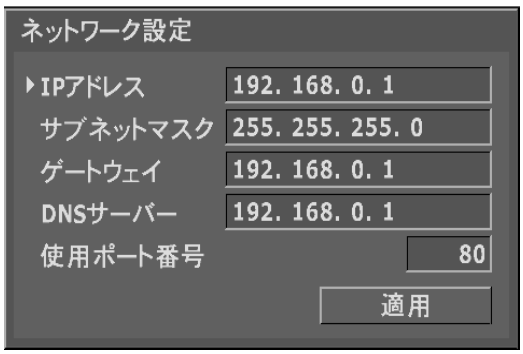
1) スポットモニター出力の種類を選択してください。
2) スポットモニター出力の詳細を設定してください。（カメラ番号、表示間隔など）
3) VGAモニタを使用するかどうか選択してください。
4) 戻るボタンを押すと終了します。

・スポットモニター出力では、分割表示画面出力以外には時間表示およびカメラタイトル等は表示されません。
・同期していない信号を入力時にスポットアウトモニタで自動切替表示設定を選択すると、入力信号を直接切り換えて出力しているため、切り換え時に画像が乱れることがあります。

5.7.7 詳細設定



5.7.7.1 ネットワーク設定



・LANを使用し、遠隔地から検索・操作できます。(ネットワーク設定を参照してください。)

■ 設定手順

1) ジョグを回して、設定を変えたい項目に移動します。
2) 実行ボタンを使用してカーソルを表示します。
3) 左右ボタンを使用してカーソルを移動します。
4) 上下ボタンかジョグを回して数値を選択してください。

IP アドレス : ___.___.___.___
サブネットマスク : ___.___.___.___
ゲートウェイ : ___.___.___.___
DNSサーバー : ___.___.___.___
使用ポート番号 : ___

5) ″適用″ボタンを押すと、″設定変更のため、システムを再起動します。″と表示されます。ここで“再起動”ボタンを押すと、再起動して設定が変更されます。

・使用ポート番号を“80”以外に設定した場合は、ウェブブラウザのアドレス入力で設定したポート番号を入力してください。(例)http://192.168.0.1:81/
・クライアントソフトウェアを使用する場合は、クライアントソフトの側でもポート番号の設定が必要となります。
・ネットワークに問題が発生した場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

5.7.7.2 日付/時刻設定



・日付および時刻の設定をおこなってください。(システムの中で使用します。)
・日付表示を設定してください。

■ 設定手順

1) ジョグダイアルを回して、設定を変えたい項目へ移動してください。
2) 実行ボタンを使用してカーソルを出してください。
3) 右/左ボタンの使用してカーソルを移動してください。
4) ジョグダイアルを回して希望の数値を選択してください。
   日付 (年/月/日) : ____.____.____
   時刻 (時/分/秒) : ____.____.____
5) 日付表示を選択してください。
   年/月/日　　月/日/年　　日/月/年
6) 前のメニューに移れば、内容が自動的に適用されます。

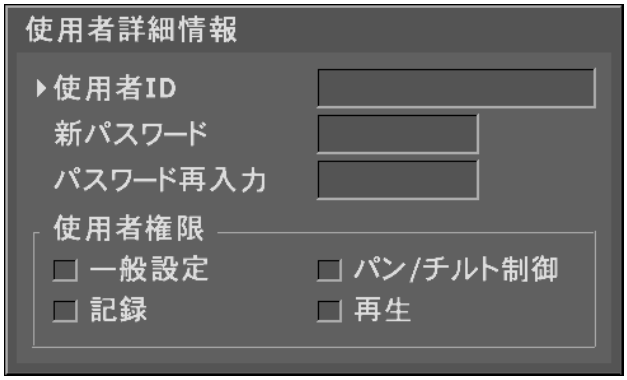
時刻を変更して同じ時刻の映像を2回記録した場合、連続再生では、記録した順番で再生されます。検索した場合は、指定時刻のどちらかにジャンプします。

5.7.7.3 パスワード設定



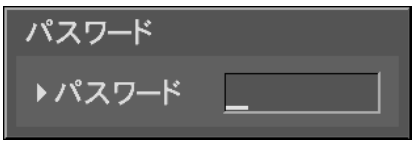
・チェックボックスをクリックすると、パスワードの有効/無効を切換えられます。
・パスワードは4桁の数字を指定してください。１～９のカメラ選択ボタンを使用して入力してください。
・管理者パスワード欄の“新パスワード”と“パスワード再入力”を終えたら、戻るボタンを押してください。
・一般設定:メニュー、PTZ:カメラ制御を意味します。

「パスワードを有効」にチェックをして、パスワードを入力せずにメニューを抜けると、デフォルトパスワードが設定されます。デフォルトパスワードは″1234″です。



・ユーザごとにIDと、対応するパスワードを作ることができます。
・ユーザごとに異なった使用者権限を設定できます。
・“新パスワード”と“パスワード再入力”の入力には１～９のカメラ選択ボタンを使用します。
・“新パスワード”と“パスワード再入力”を終えたら、戻るボタンを押してください。
・使用者IDは8文字まで設定可能です。

・一般設定にチェックしたユーザでも、以下の設定は変更できません。カメラ詳細設定，通信制御カメラ設定，記録設定，アラーム設定，音声設定，ハードディスク管理，詳細設定。これらの設定をする場合には、Administrator権限でメニュー設定画面を開いてください。
・”一般設定”または”PTZ”権限のユーザーおよびAdministrator権限でのみオペレートOFFできます。



・ユーザIDがない場合、左の図が表示されます。

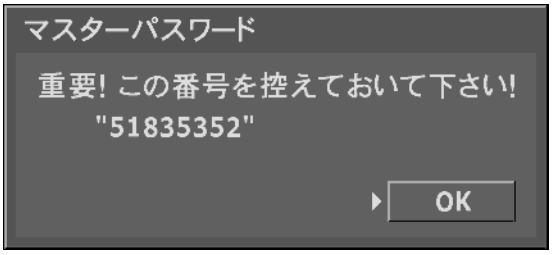
・管理者以外のユーザを設定した場合、パスワード認証ウィンドウに“使用者”欄が表示されます。
下記の手順で使用者を選択し、パスワードを入力してください。

1）戻るボタン、上ボタン、実行ボタンの順に押して使用者欄に移動する。
2）上下ボタンで使用者を選択して、実行ボタンを押す。
3）下ボタン、実行ボタンの順に押してパスワード欄に移動し、パスワードを入力して下さい。



・ユーザIDがある場合、左の図が表示されます。

・このメッセージは、“パスワードを有効”にした後に表示されます。
・パスワードを入力してください。
・間違っているパスワードを入力した場合、MENUを開くことができません。
パスワードの入力を3回間違うと、MENUスクリーンは消えます。
パスワードを再び入力するために、メニューボタンを押してください。



・初めて管理者パスワードを設定するときにマスターパスワードが表示されます。
・マスターパスワードは憶えておいてください。
管理者パスワードと使用者パスワードが分からなくなった時にパスワードの代わりとして使用することができます。
・その場合は、パスワード欄にマスターパスワードを入力してください。
・早い操作を行うとマスターパスワードが見られない場合があります。

パスワードとマスターパスワードの両方が分からなくなってしまった場合は、最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。

■ 設定手順

1) パスワードを使用するために“パスワードを有効”をチェックしてください。
2) “新パスワード”欄に入力してください。確認の為、“パスワード再入力”に再度入力してください。
3) ジョグを回して“新パスワード”の項目を選択してください。
4) “新パスワード”と“パスワード再入力”は、1～9のカメラ選択ボタンで入力してください。
5) 戻るボタンを押すと、パスワードが設定されます。

・パスワードを忘れると、システムを操作できなくなります！
・パスワードは必ず憶えておくか、安全な場所に書き留めておいてください。

5.7.7.4 ウェブ用パスワード設定



・遠隔操作できるユーザーをパスワードで制限できます。
・使用者IDは8文字の数字/アルファベットが使用できます。
・パスワードには8桁の数値が設定できます。パスワードの入力には１～９のカメラ選択ボタンを使用します。
・ウェブ用パスワードの設定をしていると、ウェブブラウザやクライアントソフトウェアからの接続時に、ユーザ名とパスワードの入力が要求されます。設定したユーザ名とパスワードを入力してください。

5.7.7.5 非表示カメラ設定



・非表示カメラ設定を使用するときには、パスワード設定画面の″パスワードを有効″にチェックをしてください。

・モニター/再生の欄にチェックをしたチャンネルは、記録はされますが、ライブ画画や再生画は″V-Loss″と表示され、表示されません。管理者パスワードを入力すると、再生することができます。

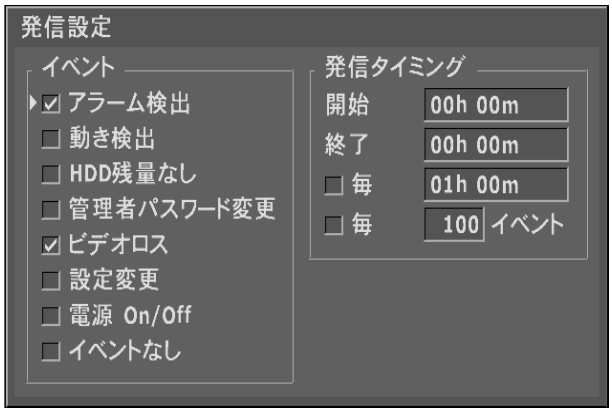
・Webの欄にチェックをしたチャンネルは、Webからライブ画表示も再生もできません。
・SPOT OUTには反映されません。

5.7.7.6 イベントメール設定



・イベントが発生したときにEメールを発信する設定をします。

・表示名を自由に設定できます。



■ イベント

・どのイベントが発生したときにメール発信するかを設定します。
″イベントなし″にチェックを入れると、イベントが何も無い場合でも発信タイミングの設定にしたがってメール発信をします。

■ 発信タイミング

・Eメールを発信する開始時刻と終了時刻を設定します。
1) 開始/終了:
開始(10h00m)、終了(18h00m)と設定すると、10h00mから18h00mまでメール発信します。
開始(00h00m)、終了(00h00m)と設定すると、メール発信されませんのでご注意ください。
2) 毎(時間):
毎(時間)にチェックすると、一定時間毎にメール発信します。
例)01h 00m:1時間毎にメール発信します。
3) 毎(イベント):
毎(イベント)にチェックすると、イベントが入力した数に達したときにメール発信します。
例)10イベント:イベントが10回起きたときにメール発信します。
4) 発信タイミングが設定されていないと、メール発信がされません。
5) 毎(イベント)の最大値は100です。

・発信タイミングで”毎(時間)”と”毎(イベント)”の両方にチェックを付けたときは、”毎(時間)”ごとにチェックを行い、”毎(イベント)”以上のイベントがあった場合にメール発信をします。

・設定可能なユーザー数の上限は6人です。7人以上設定はできますが、動作は保証致しかねます。
・イベントメール本文のログ発生時刻は正しい時刻が表示されますが、メールの送信時刻は実際と異なった時刻が表示されますので、ご注意ください。

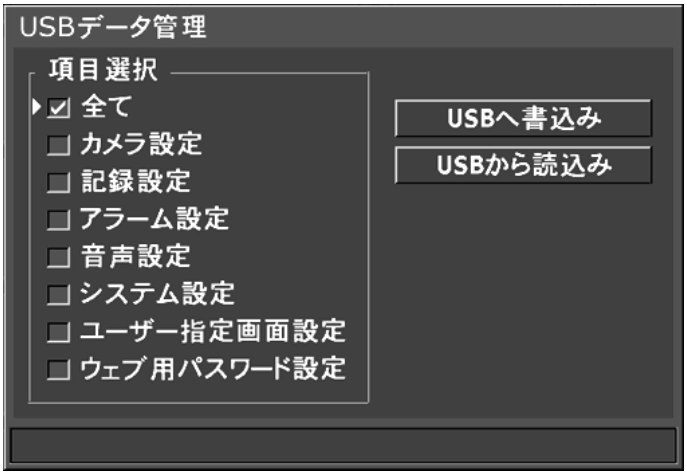


・メール発信を行うEメールアドレスを登録できます。使用するかどうかを設定できます。

・表示名の欄には8文字まで、アドレス欄には128文字まで入力可能です。

アラーム／動き検出してアラーム記録が開始されてから、再度アラーム／動き検出されたとき（リトリガー）は、メール発信しません。

5.7.7.7 USBデータ管理



■ 項目選択

USBに書込みまたは読出しする設定項目を選択できます。上下ボタンでカーソルを移動し、実行ボタンを押すとチェックを付けられます。

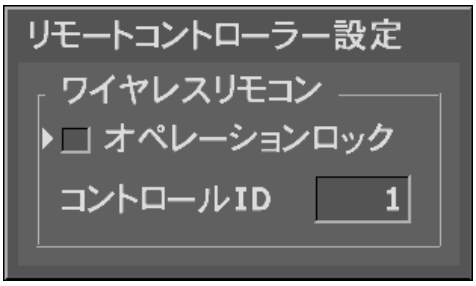
■ USBへ書込み

このボタンを押すと項目選択でチェックされた設定内容をUSBに書込みます。上下ボタンでカーソルを移動し、実行ボタンを押します。

■ USBから読込み

このボタンを押すと項目選択でチェックされた設定内容をUSBから読込みます。上下ボタンでカーソルを移動し、実行ボタンを押します。

5.7.7.8 リモートコントローラー設定



■ **ワイヤレスリモコン**

・オペレーションロックにチェックを付けると、メニューボタン以外のボタン操作を受け付けなくなります。リモコンの誤操作を防止します。
・コントロールIDの設定ができます。1-9の番号が設定できます。(ID設定については、7. リモートコントローラー もご参照ください。)
・ロックされたボタンが押されると、“ロックされたボタンです！”と画面に一瞬表示されます。

リモコンの操作方法は、**7.リモートコントローラー**(P.83)をご参照ください。

5.7.7.9 前面パネルのボタンをロック

・ここにチェックすると、オペレートボタンとメニューボタン以外の前面ボタンがロックされます。前面ボタンの誤操作を防止します。
・ロックされたボタンが押されると、“ロックされたボタンです！”と画面に一瞬表示されます。

前面パネルのボタンをロックした状態でも、停止ボタンと表示切換ボタンの長押しでVGAモニタ出力のON/ OFFを変更できます。ただし、”ロックされたボタンです！”の表示は出ます。

5.7.8 システム情報



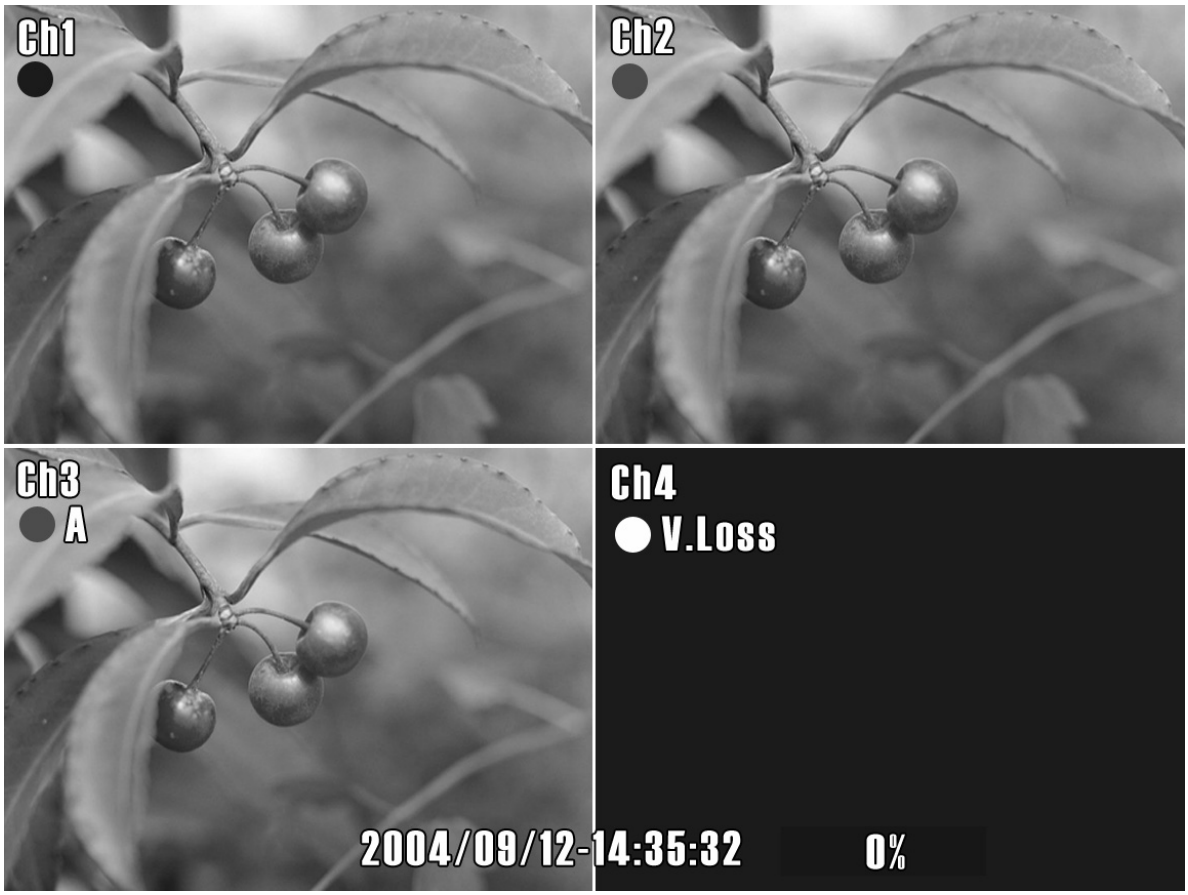
・BIOSバージョン／メインバージョン／アワーメーターを表示します。

5.7.9 工場出荷時設定

カメラ設定	記録設定	アラーム設定
カメラタイトル: 設定無し コントロールNo.: カメラNo.と同じ パン方向反転: OFF チルト方向反転: OFF 明るさ: 50 コントラスト: 50 彩度: 50 色合い: 0 機種選択: 無し ボーレート: 9600bps	マニュアル記録: ON タイマー記録: OFF (プログラムタイマー設定: 00:00 – 23:59) (日付指定タイマー設定: 設定無し) 通常記録: ON, MAX/sec アラーム記録: OFF, MAX/sec 動き検出記録: OFF 画質: Q3 音声: OFF プリアラーム記録時間: 中 アラーム記録時間: 3秒 アラーム入力: カメラNo.と同じ 動き検出: 全画面 (エリア範囲設定: 設定無し) 感度: 10 検出間隔: 10	アラーム名: 設定無し アラーム入力1-16: 全てOFF イベント: 全てOFF (ビデオロス: 全て) (動き検出: 全て) アラーム解除: 手動 (自動: 5秒)
音声設定	**メニュー表示設定**	**ハードディスク管理**
音量制御: 0 バイパス: ON 連動カメラチャンネル: 1	表示言語: 日本語 透明度(画面上表示): 0% 透明度(メニュー): 0%	自動的に上書き: OFF 過去ログを全て削除: OFF メッセージ表示: 95%
自動切換表示設定	**映像出力設定**	**詳細設定**
表示時間: 3秒 Ch1-16: 全てON ビデオロス非表示: ON	スポットアウトモニタ: 分割表示画面出力 (カメラNo.指定: 1) (表示時間: 3秒) (Ch1-16: 全てON) (分割表示画面出力: OFF) (ビデオロス非表示: ON) VGAモニタを使用する: OFF	使用ポート番号(ネットワーク): 80 日付表示: 年/月/日 パスワード設定: 設定無し ウェブ用パスワード設定: 設定無し 非表示カメラ設定: 設定無し イベントメール設定: 設定無し ポート番号(SMTPサーバー): 25 前面パネルのボタンをロック: OFF リモコンをロック: OFF

本機の仕様は予告無く変更する場合があります。

5.8 オンスクリーン表示



■ 監視中・録画中の色別の状態表示

1) 赤:通常記録です。
2) 赤(A):アラームまたは動き検出による記録です。
3) 青:ライブ画表示です。(記録をしません。)
4) 白:信号が入力されていません。(非表示カメラ設定をしている場合もこの表示になります。)

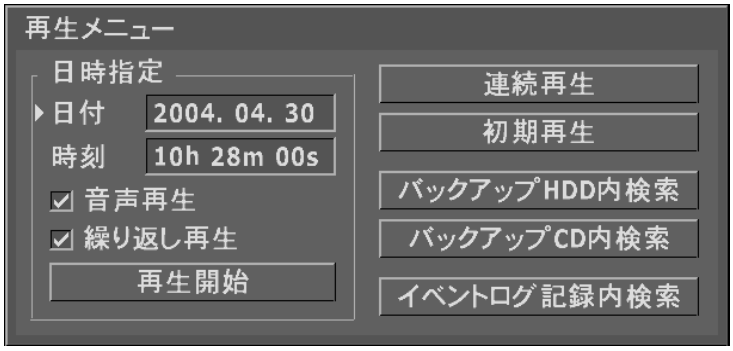
■ 再生中の色別の状態表示

・単画面表示のときのみ表示します。

1) 赤:通常記録の再生です。
2) 赤(A):アラーム / 動き検出記録の再生です。

5.9 再生メニュー

再生／一時停止ボタンを押すと再生メニューが表示されます。



■ 日時指定

・再生したい日時を設定します。

HDDに記録されている時間よりも古い時間を選んだ場合は、最も古い記録が再生されます。

■ 音声再生

・音声を再生するときにチェックします。

・スロー再生時の音声再生動作は保証されません。
・音声の有無が混在している場合、記録コマ数の設定によっては、再生時に音声ずれ又は、映像がフリーズすることがあります。これは本機の特性であり故障ではありません。

■ 繰り返し再生

・再生が記録の終わりに達したときに、始めに戻って再生を続けます。

・再生位置を表しているバーの表示はおおよその位置を表しており、繰り返し再生時左端及び右端でバーの表示と画面内容が異なることがあります。
・”繰り返し再生”にチェックを付けなくても、REVサーチしたとき、HDD先頭で止まらずに最新記録に戻ります。HDD先頭から再生したいときは”初期再生”ボタンを使用してください。
・”繰り返し再生”にチェックを付けずに、FWDサーチやFWDコマ送りすると、最新記録の一時停止画像にならずに最新の数秒間の繰り返し再生になりますが、故障ではありません。
・″繰り返し再生″にチェックをして記録同時再生を行うと、再生が録画に追いついたとき、最も古い映像にジャンプして再生を続けます。
・最新記録（30秒程度）を再生したいときは、″繰り返し再生″にチェックを付けてください。チェックを付けないと、再生できないことがあります。
・上書き記録モードでお使いの場合、HDDに記録映像が残っている部分より過去のログを指定して再生した時、上書きモードで記録されていると、最新の映像にジャンプすることがあります。このような場合、”繰り返し再生”にチェックをすれば、最新映像の再生に続いて最古の映像を再生することができます。

■ 再生開始

・このボタンを押すと再生を開始します。メニューボタンは「再生開始」ボタンのショートカットキーとして使用できます。カーソルの位置にかかわらず、メニューボタンを押すと再生を開始します。

■ **連続再生**

・停止した位置から連続して再生を開始します。

■ **初期再生**

・ハードディスクNo.1の先頭から再生を開始します。

■ **バックアップHDD内検索**

1) バックアップHDDに記録されたリストが表示されます。
2) "改ざん検出動作"にチェックを付けると、改ざんを検出できます。チェックの有無を変更するにはユーザーボタンを使用します。再生中に改ざんを検出すると、画面下部に「Manipulated」と表示して、一時停止になります。
3) 上下ボタンかジョグで項目を選択し、実行ボタンを押すと記録映像を再生します。
（ファイル名：****.602）

■ **バックアップCD内検索**

1)バックアップCDに記録されたリストが表示されます。
2) "改ざん検出動作"にチェックを付けると、改ざんを検出できます。チェックの有無を変更するにはユーザーボタンを使用します。再生中に改ざんを検出すると、画面下部に「Manipulated」と表示して、一時停止になります。
3) 上下ボタンかジョグで項目を選択し、実行ボタンを押すと記録映像を再生します。
（ファイル名：****.602）

■ **イベントログ記録内検索**

・イベントログは検出時刻／検出イベントを表示します。
・HDD１台ごとにイベントログの検索・表示を行います。左右ボタンで前後のHDDを検索します。
・イベントログ表示画面において、上下ボタンまたはジョグでログを選択して実行ボタンを押すと、ログが記録された時刻から再生を開始します。停止ボタンを押すとイベントログ画面に戻ります。

ハードディスクの構成を変更した場合、変更後に記録したイベントのログが正しく検索できないことがあります。このようなときは、日時指定を構成変更した時間より後にすると正しく表示されます。

■ **◀/❚❚、▶/❚❚、停止ボタン**

・再生モードでは、◀ /❚❚ 、▶ /❚❚ ボタンで再生方向を変更したり、一時停止できます。
・再生中に ◀ / ❚❚ ボタンを押すと逆再生に、▶ /❚❚ ボタンを押すと一時停止になります。
・逆再生中に▶ /❚❚ ボタンを押すと再生に、◀ /❚❚ ボタンを押すと一時停止になります。
・一時停止時に◀ /❚❚ ボタンを押すと逆再生に、▶ / ❚❚ ボタンを押すと再生になります。
・停止ボタンを押すと再生メニューに戻ります。

・再生の速度は、記録時と等速でないことがあります。
・再生時に動きが不自然になることがあります。
・IEEE1394 HDDの再生時、データ転送速度によっては画面が乱れることがあります。
・HDRに搭載されているHDDに強い衝撃などが加わり損傷した場合は、画面が止まったり異なるチャンネルが表示されることがあります。

■ ジョグ/シャトル

・シャトルを左右に回すと、高速サーチができます。
・再生/逆再生中にジョグを回すと、スロー再生ができます。
・一時停止中にジョグを回すと、コマ送り再生ができます。

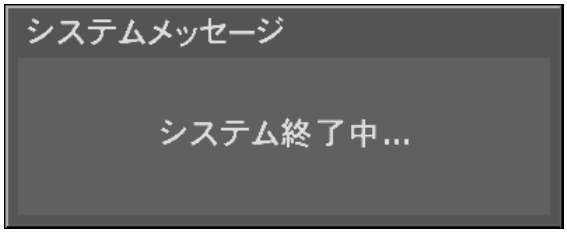
■ 表示切換ボタン他

以下のボタンを使用すると、再生画面を表示できます。

1) 表示切換　　:記録チャンネルが1/4/9/16分割で表示できます。
2) イメージシーケンス:時分割でフィールド単位の画像を表示できます。
3) トリプレックス　　:ライブ画を表示中に再生画を表示する事ができます。

再生時の分割画面数は、ライブ画表示の分割画面数に従います。ただし、6/7/10分割画面やユーザー指定画面でライブ画表示をしていたときは、16分割画面になります。

5.10 オペレートOFF



・前面パネルのオペレートスイッチでオペレートOFFできます。

HDRを使用しないときは背面パネルの電源スイッチをOFFにしてください。

6. 外部バックアップ

・周辺機器の電源を全てONにしてから、本機をオペレートONにしてください。
・周辺機器の電源をOFFにするときは、必ず本機をオペレートOFFにしてから行なってください。

6.1 USB端子

6.1.1 USB端子の接続

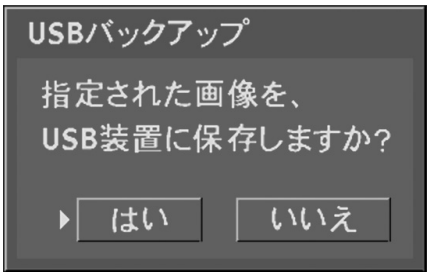
USB端子にはFDDやUSBメモリを接続できます。本機のUSB端子はUSB1.1規格に対応しています。
通信速度は遅いので、静止画の保存等に使用します。

6.1.2 バックアップ

電源がONの時は電源をOFFにしてから接続してください。

■ 設定手順

1)単画面で再生中、バックアップを行ないたい部分で一時停止します。
2)フリーズボタンを押すと、バックアップメニューが表示されます。
3)実行ボタンを押してください。



・USB FDDを使用する時にはFDDを
初期化してください。



・コピーが完了しました。

■ USB機器に保存するデータのファイル名は次のようになります。
静止画 :****.dvf
PCで再生するには添付の専用クライアントソフトウェア(Image View)をご使用ください。

・故障を避けるため、HDRにUSB機器を接続するときには、電源を切った状態で行なってください。
・HDRをリセットするときにはUSB機器の電源をOFFにしてください。
（USBメモリなど電源スイッチが無い機器は除きます。）

6.2 IEEE 1394端子

6.2.1 IEEE1394端子の接続

増設HDD／外部増設機器の導入について
接続可能なIEEE1394機器の機種については、ご購入の販売店にご相談ください。

・IEEE1394端子にはHDD等を接続し、直接バックアップを行なえます。IEEE1394のHDDは大容量で通信速度が速いので、バックアップや再生に使用できます。

・IEEE1394機器を接続すると下のような画面が表示されます。電源がONの時は電源をOFFにしてから接続してください。



IEEE1394機器を接続すると、ハードディスク管理画面が表示されます。

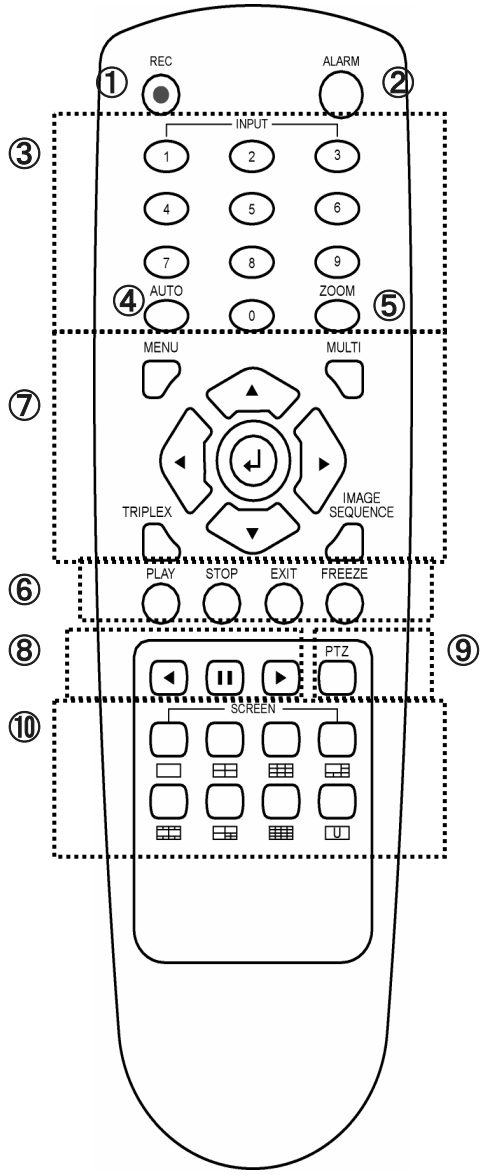
・メニュー内の“システム”→“ハードディスク管理”を選択するとHDDの用途などの設定ができます。
（→ **5.7.3 ハードディスク管理**(P.57) をご参照ください。）
・IEE1394HDDはメイン用かバックアップ用として使用でき、再生も可能です。

■ IEEE1394 HDDの増設
・IEEE1394には入出力の区別はありません。IEEE1394HDDはディジーチェーンで増設が可能です。
・IEEE1394は4台まで接続できます。ただし、バックアップに設定できるのは内蔵HDDも含めて1台のみです。（→ **5.7.3.1 ハードディスク情報**(P.58) をご参照ください。）

・故障を避けるため、HDRに外付けIEEE1394機器を接続するときには、電源を切った状態で行なってください。
・HDRをリセットするときにはIEEE1394機器の電源をOFFにしてください。
・IEEE1394 HDDから再生中に画面が乱れる場合があります。これはデータ転送速度に起因しており、故障ではありません。もう一度再生してください。

7. リモートコントローラー

7.1概要



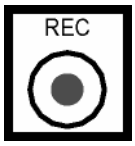
はじめにコントロールIDの設定をする必要があります。

・前面パネルで、停止ボタンと登録したい番号のカメラ選択ボタン(1-9)を同時に押し、本体側のリモートコントローラーIDを設定します。(メニューで設定することもできます。**5.7.7.8 リモートコントローラー設定** (P.75) をご参照ください。)

・リモコンのカメラ選択ボタン(1-9)を長押しすると、該当IDが設定されたHDRのリモコンLEDは点灯し、それ以外のIDが設定されたHDRのリモコンLEDは消灯します。リモコンLEDが点灯しているHDRのみ操作を受け付けます。同じ場所に複数台のHDRを設置する場合は、操作したいHDRのみリモコンLEDが点灯していることを確認してから操作をしてください。

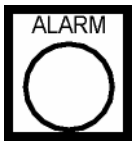
7.2 詳細

①



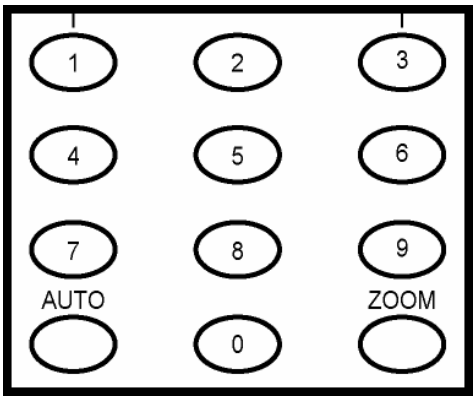
・RECボタン：このボタンを押すと記録を開始します（マニュアル記録設定時）。記録中にこのボタンを押すと記録が停止します。
記録LEDが点灯しているとき、設定された録画を行ないます。

②



・ALARM RESETボタン：アラーム出力を停止します。

③



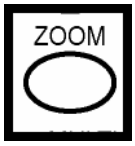
・INPUTボタン：
出力するカメラチャンネルを選択します。また、メニューでの設定時チャンネルを変更したり、ユーザー設定での分割表示を変更や、フリーズ時のカメラチャンネルを選択する時に使用します。
チャンネルの選択やパスワードを入力するときは、01, 02, 03, …10, 11, …16のように押してください。

④



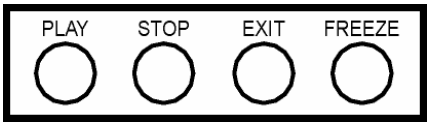
・AUTOボタン：メニューで設定した速度で、入力チャンネルを自動的に切り替えます。

⑤



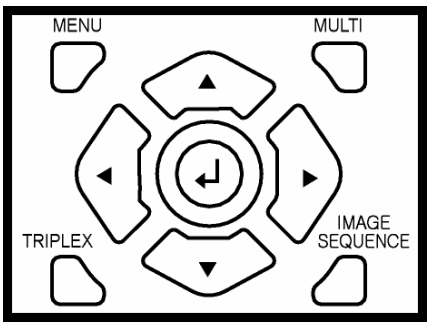
・ZOOMボタン：画面を拡大する時に使用します。2倍に拡大されます。

⑥



・PLAY：　再生時に使用します。
・STOP：　再生時を停止する時に使用します。
・EXIT：　設定が終了した時や再生が終了した時にメニューから元の画面に戻るときに使用します。
・FREEZE：このボタンを押してからINPUTボタンでチャンネルを選択すると、そのチャンネルの映像をフリーズします。

⑦



・MENUボタン:
メニュー画面を表示するときに使用します。また、メニュー画面表示中にこのボタンを押すと、元の画面戻ります。
・MULTIボタン:
イメージシーケンス再生やトリプレックス再生を解除する時に使用します。
・TRIPLEXボタン:
P in PモードでEE画と再生画を同時に確認するときに使用します。
・IMAGE SEQUENCEボタン:
再生画をイメージシーケンスモードで再生します。
・ENTERボタン:
設定値の選択や実行時に使用します。
・▲/▼/◄ /► ボタン :
メニュー内でカーソルの移動時に使用します。

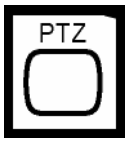
再生中には、上下ボタンをシャトルの代わりとして、左右ボタンはジョグの代わりとして使用できます。

⑧



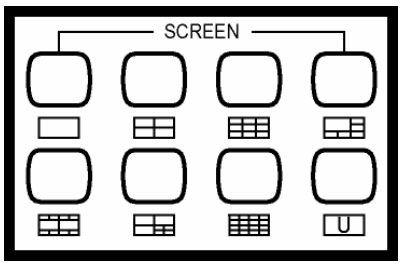
・逆再生/一時停止/再生ボタン:
再生モードでこれらのボタンを押すと逆再生、一時停止、再生(順方向)を行ないます。

⑨



・ PTZボタン:
このボタンを押すと、カメラ制御ができます。
・ ◄/ ► ボタン:制御する項目を選択します。
・▲ / ▼ボタン :選択した項目の制御を行います。
カメラ制御を終了するには、戻るボタンを押します。

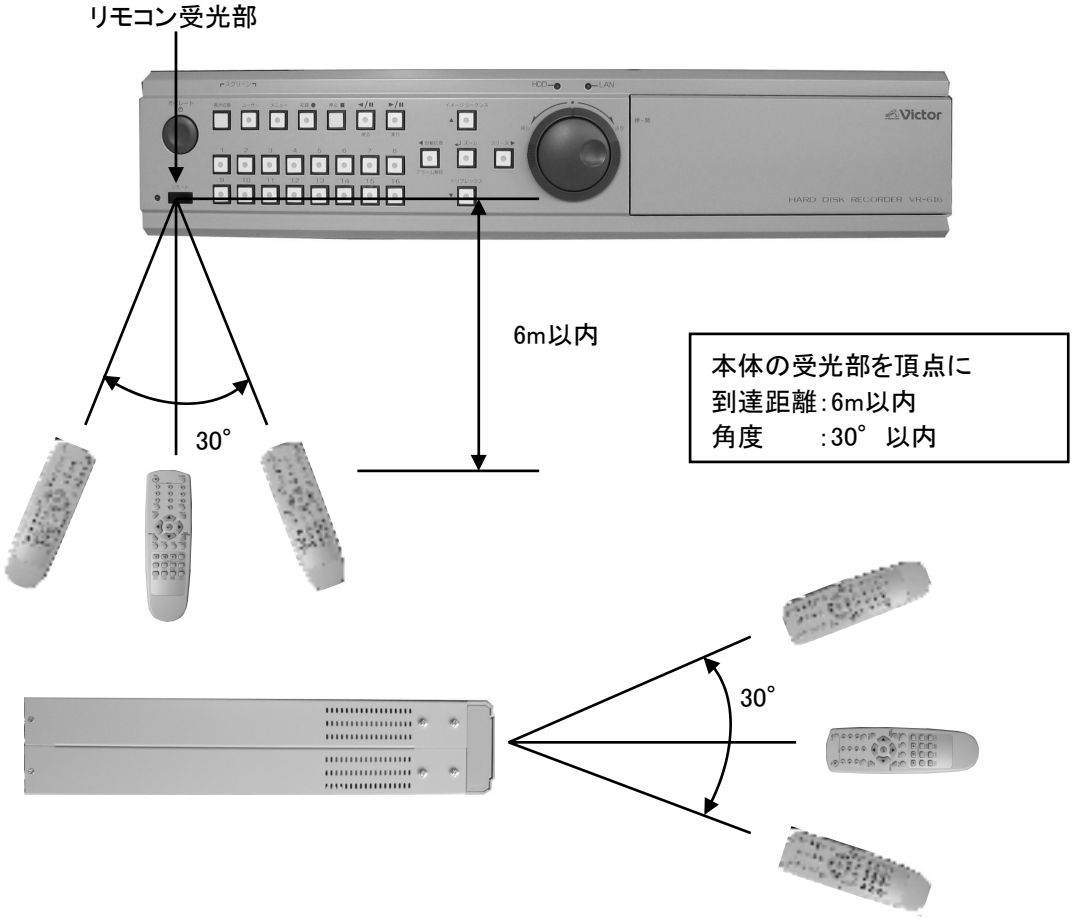
⑩



・SCREENボタン:
表示中の分割モードを切り換える時に使用します。
再生中は使用できないボタンがあります。

右下の"U"の表記のボタンはユーザーボタンです。

■ ワイヤレスリモコンの動作可能範囲

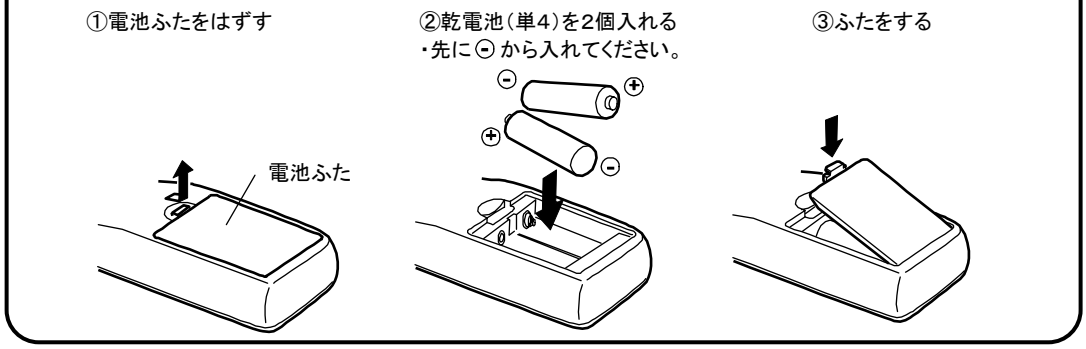


・リモコン受光部とリモコンの間に障害物があると、リモコンが動作しなかったり、しにくくなります。
・リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていると、リモコンが動作しにくくなります。
・本体とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因になります。
・電池の液漏れにご注意ください。

■ 乾電池交換の目安

・リモコンの操作できる距離が短くなってきたら、乾電池が消耗しています。このようなときは新しい電池(単4、マンガン電池)に交換してください。(目安:1日平均2000回使用時で約10ヶ月)

乾電池の入れ方



8. トラブル時の対応

症状	原因	処置
電源が入らない。	・電源ケーブルが外れていませんか。	・付属の電源ケーブルを100Vコンセントに差し込んでください。
[記録][再生]を押しても操作できない。	・オペレーションロックになっていませんか。	・オペレーションロックを解除してください。
[記録]を押しても記録を開始しない。	・タイマースタンバイになっていませんか。	・タイマー記録のチェックを外してください。
再生画がモニターに表示されない。	・モニターは正しく接続されていますか。	・モニターを正しく接続してください。
メニュー画面が表示されない。	・SPOT OUTに接続されていませんか。	・MONITOR OUTに接続してください。
音声が再生できない。	・記録設定で音声設定をチェックしていますか。 ・音声設定の音量制御は正しく設定されていますか。	・記録設定で音声設定をチェックしてください。 ・音声設定で音声制御を適切に設定してください。

問題が解決しない場合は、最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。

9. 保証とアフターサービスについて

1) 保証書の記載内容ご確認と保存について
この商品には保証書を別途添付しております。
保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

2) 保証期間について
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。その他詳細は保証書をご覧ください。

3) 保証期間経過後の修理について
保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

4) アフターサービスについてのお問い合わせ先
アフターサービスについてのご不明な点はお買い上げ販売店、または別紙サービス窓口案内をご覧のうえ、最寄のサービス窓口にご相談ください。

■ 修理を依頼されるときは
お買い上げ販売店に次のことをお知らせください。

・ハードディスクレコーダー
VR-616
・お名前とおところ
・電話番号
・故障症状（詳しく）

5) 廃棄について
この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例にしたがって適切に処理してください。

10. 仕様

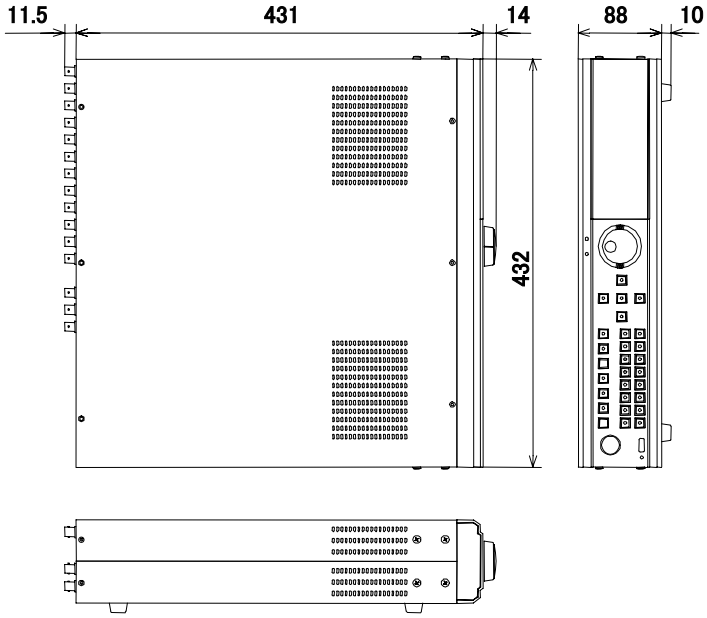
項目	項目	VR-616	
入力チャンネル数	端子数	16	
入力信号	信号方式	NTSC	PAL
	入力信号	コンポジット 1.0V　スルーアウト出力あり，BNC	
入力信号プロセッサ	圧縮 形式	Wavelet ベース	
	画素数 (H x V)	720 x 240	720 x 288
	圧縮	7 段階	
モニター出力 (コンポジット)	端子数	2	
	Video レベル (Vp_p)	1.0	1.0
	Burst レベル (Vp_p)	0.286	0.3
モニター出力 (S-Video)	端子数	1	
	Y レベル (Vp_p)	1.0	1.0
	C レベル (Vp_p)	0.286	0.3
VGA 出力	端子数、形状	1端子, 15ピン D-SUB ジャック	
	画素数、周波数	640 x 480、60Hz	640 x 480、50Hz
SPOT 出力	端子数、形状	1 端子, コンポジット　1.0Vp_p 75 Ω BNC	
Output Display Mode	ライブ	フル/4/6/7/9/10/16/ズーム	
	ユーザー & ライブ	4/6/7/9/10/13/PIP	
	再生	フル/4/9/16/シーケンシャル/ズーム	
	トリプレックス	ライブ & 記録 & 同時再生	
	自動切換時間	自動モード 1-300sec, チャンネルスキップ機能	
	検索モード	4 モード (日付, 時刻, チャンネル, イベント)	
オーディオ信号プロセッサ	オーディオ入力	1 チャンネル/ モノラル, -5dBs　RCA ジャック	
	オーティオ出力	1 チャンネル/ モノラル, -5dBs　RCA ジャック	
	サンプリングレート	8 kHz	
システム コントロール	HDD コントロール	ULTRA DMA IDE　内蔵 & リムーバブル	
	HDD 数	2	
カメラタイトル	文字数	Max 16文字/チャンネル	
	文字	アルファベット(大文字/小文字), 数字, 記号	
時刻表示	表示モード	yy/mm/dd/, mm/dd/yy, dd/mm/yy, hh/mm/ss	

・オーディオ入力: -5dBs, ゲイン: 0のとき、オーディオ出力: -5dBsになります。

バックアップ & コピー	IEEE1394	1 端子, HDD, CD-R/RW	
	USB	2 端子, Flash Memory, FDD	
改ざん防止機能		あり(CD/HDDバックアップ, 静止画キャプチャ,ダウンロード)	
アラーム コントロール	アラーム入力	16 端子, Low アクティブ Alarm	
	アラーム出力	4 端子, Low アクティブ Alarm, TTL レベル	
	出力モード	Alarm 入力, V-loss, 動き検出, Disk Full, 管理者パスワード変更	
	ログ表示	日付 & 時刻, CH, カメラタイトル, イベント	
動き検出	モード & グリッド	フル/グリッド(16H x 12V)	
	感度	10 段階	
	検出間隔	10 段階	
ネットワーク & リモートコントロール	シリアル I/O ポート	1端子, RS-485, 3P 端子	
	LAN	1 端子, Ethernet 10/100M , RJ-45P	
記録プロセッサ	モード	間欠/動き検出/アラーム	
	記録コマ数	Max 60fps	Max 50fps
	間欠記録レート (1ch当たり)	30F/1sec ～1F/60sec	25F/1sec ～1F/60sec
記録	モード	タイマー & マニュアル	
プログラムタイマー記録	曜日設定	7 プログラム, Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat	
	日付指定タイマー	Max 16	
電源	AC 入力 (V, Hz)	100V, 50Hz/ 60Hz	
	ヒューズ	T6.3AH 250V	
消費電流	A	1.2 A	
消費電力(参考値)	W	49W	
動作湿度	RH	30%RH - 80%RH	
動作温度	° C	5 ° C - 40 ° C	
サイズ	W x H x D (mm)	432 x 88 x 431	
質量	w/o Packing	9 kg	
添付物	電源コード	1	
	取扱説明書	1	
	リモートコントローラ	1	
	電池	2	
	CD-ROM	1	
	ロック キー	2	

添付物	ラックマウント金具	2
	フット	4
	フット取付けネジ	4
	RS-485端子	1
	アラーム入力端子	2
	アラーム出力端子	1
	ラック ハンドル	2
	ハンドル固定ネジ	4
	HDD固定ネジ	4

＜外観図＞



[単位 : mm]

本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

VR-616 ハードディスクレコーダー

お客様ご相談センター

フリーダイヤル
0120 – 2828 – 17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は

電話 (03) 5684-9311[代表]
FAX (03) 5684-9317

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル

日本ビクター株式会社

プロシステムカンパニー

〒192-8620 東京都八王子市石川町2969-2 電話(0426)60-7203

© 2004 Victor Company of Japan, Limited

Printed in Korea
LLT0080-001B-K